令和２年度

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」
「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

実 施 報 告 書

新　潟　県
新　潟　市

《 目 次 》

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」

１　上越市立東本町小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

「見つめよう　わたしたちの食と命」

２　上越市立国府小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

「生活環境を守る」「新潟水俣病差別」

３　妙高市立新井中央小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

「私たちの食と命～気付こう、考えよう、行動しよう～」

４　五泉市立五泉小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

「五泉市に生息する魚トゲソを導入として、水の汚れや環境問題についての基礎を学ぶ。
阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。」

５　五泉市立五泉南小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

「五泉市生息する魚トゲソを通して水の汚れなどの様々な関係について学ぶ。社会科
の公害について学習する単元において、新潟水俣病の発生と被害について学ぶ。」

６　五泉市立川東小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

「ふるさと五泉　水の里」

７　五泉市立村松小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

「五泉市生息する魚トゲソを通して、水の汚れや環境問題の基礎を学ぶ。」

「紙芝居・絵本を見て新潟水俣病を学ぶ。」

８　五泉市立愛宕小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

「五泉市に生息する魚トゲソとの出会いを導入として、水の汚れや環境問題の基礎的
な内容を学習する。その中の阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。」

「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

９　新潟市立太夫浜小学校・・・

小学校・中学校への
地域の環境学習等支援事

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立東本町小学校	担当（職・氏名）	教諭　藤井　美香
学習テーマ	見つめよう　わたしたちの食と命		
活動のねらい	毎日の私たちの「食生活」を見つめ直し、様々な人々とのかかわりや体験を通して、「食」の大切さや問題点、「人」のおもいや願いを理解する。「食」を自分自身の問題としてとらえながら、課題解決に向けて取り組んだり、これからの自分の食生活や生き方を考えたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

稲作についての講話、と畜の仕事の学習などを通し、「食と命」の関係について考えてきた。その中で「食べることは、生きること」ということを深く考えるようになった。阿賀野川流域に住む人々にとって、阿賀野川は「命の川」であり、川で捕れる魚は命を支える大切な食糧であったこと、その大切な「命の川」が一転して人々の体をむしばんだという事実について知った。さらに新潟水俣病についての学習を通して、被害者の方々が体の苦しみだけではなく、偏見や差別によって、心の苦しみも受けていることも知った。そこで、新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の解消に向けて、自分にできることを考え、児童の実践的態度を養うことをねらいとして活動を行った。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）新潟水俣病の概要を理解する。
（２）写真やＤＶＤ等の資料を活用し、阿賀野川は人々の生活と密着した命の川であることの理解を深める。
（３）現地学習会を通して、新潟水俣病を身近な問題としてとらえ、切実性をもちながら、事実について学び、考えていく。
（４）交流した方の実体験を基に、被害者のおもいや願いにおもいを寄せる。
（５）新潟水俣病被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別解消のために行動しようとする気持ちを高める。
（６）新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために行動する。

○　活動詳細

実施期間	８月～３月	
主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
新潟水俣病について知る。	５	・ＤＶＤ「水俣病のあらまし」を視聴し、関心をもたせるとともに概要をつかませる。 ・新潟水俣病の原因や症状についてまとめ、自分の意見をもたせる。
胎児性水俣病について知る。	１	・母親の胎内で水俣病になる仕組みを理解させ、疑問をまとめたり、おもいを考えさせたりする。
現地学習会を行う。 ・語り部の講話 ・阿賀のお地蔵さん見学 ・安田患者の会の方々との交流	９	・現地で学習すること、新潟水俣病問題に詳しい講師から詳しく教えてもらうことにより、資料では分からなかった発生当時の様子について考えさせる。

現地学習会のまとめをし、発表する。	3	・交流した語り部や被害者の症状や教えてもらったことを振り返らせ、被害者のおもいについて自分の考えをまとめさせる。
差別解消に向けて大切なことを考える。	2	・被害者の身体や心の痛みについて考え、そのおもいに寄り添いながら、今も続く差別の現実に改めて気付かせる。 ・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために大切にしたいことを考えさせ、行動しようとする気持ちを高める。
差別解消に向けて行動する。	4	・新潟水俣病被害者に対する差別をなくすために自分ができることを実践させる。

○　協力団体・協力者等

・安田患者の会事務局　旗野秀人さん　　・安田患者の会の皆さん
・環境と人間のふれあい館
・語り部　新潟水俣病被害者の会　小武節子さん
・語り部　新潟水俣病被害者の会　山﨑昭正さん

○　成果と課題

〈成果〉

・事前学習での学びを更に深め、身近な問題としてとらえるために現地学習会を行った。実際に阿賀野川を見たり、語り部の方から話を聴いたりしたことで、児童は阿賀野川流域に暮らす人々にとって生活に欠かせない大切な川であった「命の川」が「魔の川」となったことを自分事として考えることができた。

・語り部の小武さんや山﨑さん、安田患者の会の皆さんからの話を基に学習し、新潟水俣病の公式確認から５５年以上経った今も続く偏見や差別と向き合った。現地学習会での学びやかかわりが基となり、より被害者におもいを寄せることができたことで、新潟水俣病被害者に対して偏見や差別が続いている要因や、差別に立ち向かう被害者を支えている仲間のおもいに気付いた。そして、自分自身の心と向き合い、差別解消のために大切なことや自分にできることを考えることができた。



〈課題〉

・新潟水俣病の被害者に対する差別は、上越市の児童にとって身近ではなく、自分が行動したことで結果が出るということを実感しにくい。しかし、現地学習でかかわった方からの「自分がしていることが結果にすぐに出なくても、自分にできることをすることが、差別解消につながる」という言葉は、児童が今後の行動を考える上で大きな手がかりとなった。学び、考えたことを日常生活にも結び付け、行動につなげていけるような手立てや支援がもっと必要である。



（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立東本町小学校	**5年1組（34人）**	**11月13日**	**同和学習**	**教諭　藤井　美香**

主題名：新潟水俣病の被害者に対する偏見や差別をなくすために行動しよう

ねらい：新潟水俣病被害者が、周りの人々からの差別や偏見に苦しんでいる現実に憤り、差別を受け続けている被害者のおもいに共感することを通して、偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、行動しようとする態度を育てます。

配時（分）	教師の働き掛け、学習活動 ○発問　☆指導上の留意点	子どもの反応	資料
１０	☆資料前半を読む。 ○出来事を聞いて思ったことを発表しましょう。	・新潟水俣病はうつる病気じゃないのに「家に入るな」はひどい。差別だ。 ・見た目で判断して、「ニセ患者」なんてひどい。具合はその人にしか分からないのに決めつけている。 ・今もこんな差別があるなんて信じられないし、許せない。	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料
１０	☆現地学習会でかかわったＡさんが今も受けている差別であることを伝える。 ○Ａさんはどんな気持ちでしょうか。	・新潟水俣病の症状もつらいのに、心はもっとつらい。 ・数えきれないほどの嫌な言葉を言われてつらい。 ・今まで仲のよかった人にも相談できないのは本当につらい。 ・新潟水俣病のことを伝えたいだけなのに「村の恥」はつらい。分かってもらえなくて悔しい。	
１５	○今も新潟水俣病被害者に対する差別が続いているのはなぜでしょう。 ☆新潟水俣病について学ぶ前の自分を振り返らせ、正しく知らないことが、偏見や差別につながっていること、自分の心の中にも差別や偏見の心があることに気付かせる。 	・新潟水俣病のことを正しく知らないし、知ろうとしていないから。 ・症状は見た目では分からなくて、元気そうに見えるから。 ・裁判でお金をもらえてうらやましいとねたむ気持ちがあるから。 ・噂や周りの人が言ったことを正しいかどうか考えていないし、流されているから。  	

7	☆資料後半を読む。 〇つらい、苦しいおもいをもちながらも、Ａさんはなぜ活動を続けることができたのでしょうか。	・自分のことを理解し、支えてくれた人がいたから。 ・差別をせずに支えてくれる仲間がいたから。 ・何でも本音で話せる、頼りになる、応援してくれる仲間がいたから。 ・新潟水俣病のことを正しく知ってもらうことをあきらめなかったから。	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料
１８	〇今日の学習やこれまで学んだことを振り返り、新潟水俣病に対する差別をなくすために、自分が大切にしたいことは何か、考えて書きましょう。  	・新潟水俣病被害者の方は何も悪くないし、差別される理由は何もない。正しい知識を伝えていきたい。今、考えたことを、行動にうつしていく。 ・支援をしている方は、被害者の方の気持ちを考えて、自分のできることをしようと行動していた。私は、新潟水俣病について学んだことを家の人や友達に伝えていきたい。  	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・知らないから差別心があった。口には出さないけれど、心の中の差別心に気付いた。正しく学んで、その心がなくなり、差別・偏見がなくなるように、自分もさらに正しい知識を身に付け、自分から行動したい。

・自分がまず差別はしない。新潟水俣病のことを知らない人がいたら、学んだことをいかして正しく伝えたい。新潟水俣病のことじゃなくても、差別や偏見はせずに、自分の行動から見直していくことが大切。

・わたしは、新潟水俣病は怖い病気だと思っていた。でも、学習したあとは、怖いと思うのは正しく知らなかったからだと思った。これからは、正しく知って、正しく行動していきたい。小さな一歩でもあきらめず、続けていきたい。

・今まで同和学習で自分が話していることを心の中では「きれいごとだ」と思っていた。でも、そう思うのではなく、今まできれいごとだと思っていたことをできる自分になるために、正しいことを伝えていきたい。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立国府小学校	担当（職・氏名）	教諭　齊藤　亜紀子
学習テーマ	・生活環境を守る ・新潟水俣病差別		
活動のねらい	・新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組み、周囲の状況等を正しく理解する。 ・新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知り、偏見や差別をなくすために考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

５学年社会科「環境とわたしたちのくらし」では、四大公害病の水俣病に焦点を絞って学習した。熊本県八代海沿岸で起きた水俣病が、11 年後に新潟県阿賀野川流域で起きたことに注目させ、離れた２つの場所を関連づけることで、水俣病の被害と全国各地での公害をなくす取組を自分たちの生活と重ねて考えさせるようにした。その上で「環境と人間のふれあい館」での現地学習会を行い、新潟水俣病を身近な問題として考えることができるようにした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）社会科「環境とわたしたちのくらし」
（２）新潟県の新潟水俣病に関するパンフレットや冊子、ＤＶＤ等の資料の活用
（３）「環境と人間のふれあい館―新潟水俣病資料館―」での現地学習会を通して、事実から考え、新潟水俣病を身近な問題としてとらえる
（４）新潟水俣病被害者の思いを受け止め、これからの社会形成に向けて大切なことを考える

○　活動詳細

実施期間	９月～１１月	
主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
社会科 「環境とわたしたちのくらし」	１７	・身の回りの自然環境と自分たちのくらしとのつながりについて理解させる。 ・公害をなくすための取組について調べさせる。
現地学習会事前学習 新潟水俣病について知る	1	・新潟県「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」を活用したり、ＤＶＤ「水俣病のあらまし」を視聴したりして関心をもたせ、概要をつかませる。
現地学習会を行う ・語り部の講話 ・環境と人間のふれあい館見学	3	・新潟水俣病被害者との出会いを通して被害者の思いや生活の様子にふれることで、被害者の思いに共感させる。
現地学習会事後学習 学習したことをまとめる	2	・現地学習会での学びを振り返らせ、水俣病被害者の思いや生き方、人間と環境との関係について自分なりの考えをまとめさせる。
人権教育 差別解消に向けての気持ちを高める	1	・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために自分にできることを考えさせる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館
・語り部　新潟水俣病被害者の会　小武　節子さん、曽我　浩さん

○　成果と課題

（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

［成果］

・１学期に全校で新型コロナウイルス感染症への不安や恐怖から、感染者や感染症にかかわる人に対する偏見や差別につながることを学習し、差別をなくすために自分たちにできることを考え、実行したことと、新潟水俣病差別の問題とを関連付けて学習できた。日々の感染対策でマスク着用、手洗い、換気などを続け「悪いのはウイルスで、感染した人ではない」という正しい認識と「感染症に関係する人に対する周囲の偏見や差別があるという事実から、差別された人の気持ちを考える」という人権感覚を育成する学習をしてきた。このような学習を積み重ねにより、水俣病被害者の苦しみに寄り添いながら考え、差別解消に向けた気持ちをさらに高めることができた。

・熊本県八代海沿岸で起きた水俣病と新潟県阿賀野川流域で起きた新潟水俣病の学習と関連づけて考えさせたことで、水俣病の原因である工場廃水や被害の状況、水俣病被害者の症状が人や時間の経過によって多様でそれぞれ異なることと、それにともなう周囲の偏見と差別の状況を理解し、自分なりの考えをもつことができた。

・語り部（小武さんと曽我さん）から阿賀野川流域に暮らしてきた生活者としての話を聞き、差別と向き合い続ける小武さんと曽我さんの苦しみと強さ感じた。その思いを広げる人権教育を実践し、「差別に負けないたくましさ」「周囲の人たちのかかわり」について考えることができた。

［課題］

・移動時間等の関係で「環境と人間のふれあい館」での語り部との交流や施設見学の時間確保が難しかった。事前、事後の学習を充実させることでより深く学ぶことができるようになると考える。

＜現地学習会後の児童の感想＞

・水俣病は、多くの人の命をうばっただけでなく、多くの人の人生をうばいました。阿賀野川は生活の川、命の川と小武さんが教えてくれた意味が、話を聞いてだんだん理解できました。水俣病で、普通の暮らしもやりにくくなり、それでも裁判を続けたことを教えてもらいました。もっと水俣病のことを知りたいです。それで、水俣病で苦しんでいる人たちを救いたいです。私も勇気のある、立派な大人になります。

・ぼくは、家に帰って親に学習したことをくわしく話しました。水俣病で困っている人が、日本には、たくさんいて、今でも引っ越し先の東京や大阪でも裁判で訴えていることが分かりました。曽我さんが肩をけがした時に、水俣病のしびれでケガの痛みを感じられなかったからケガの治療ができないまま長い間苦しんだことを教えてくれました。年をとるごとに症状が強く出たり、人によって症状が違ったりすることがよく分かりました。それなのに、水俣病と認められないのは、とても苦しいと思いました。つらい思いをしていた人がいることを忘れないで生活したいです。

＜人権教育の授業後に、子どもたちが考えたこと＞

・節子さんはずっと変わっていなくて、変わったのは差別している方の周りの人たちだと気づきました。差別をなくしていくには、居場所をつくることだと思いました。認めたり、応援したりしてくれる本当の仲間がいることが大切だと思いました。

・前に学習した「コロナ差別」や「いじめ」と似ていると思いました。相手を傷つけたり、仲間はずしをしたり、差別はしません。私は、他の人に水俣病のことを教えて、みんなで話し合うことが大切だと思いました。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立国府小学校	**５年（６４人）**	**11 月 11 日**	**社会科**	**教諭　齊藤　亜紀子**

主題名　公害を乗り越えた地域の人々の取組

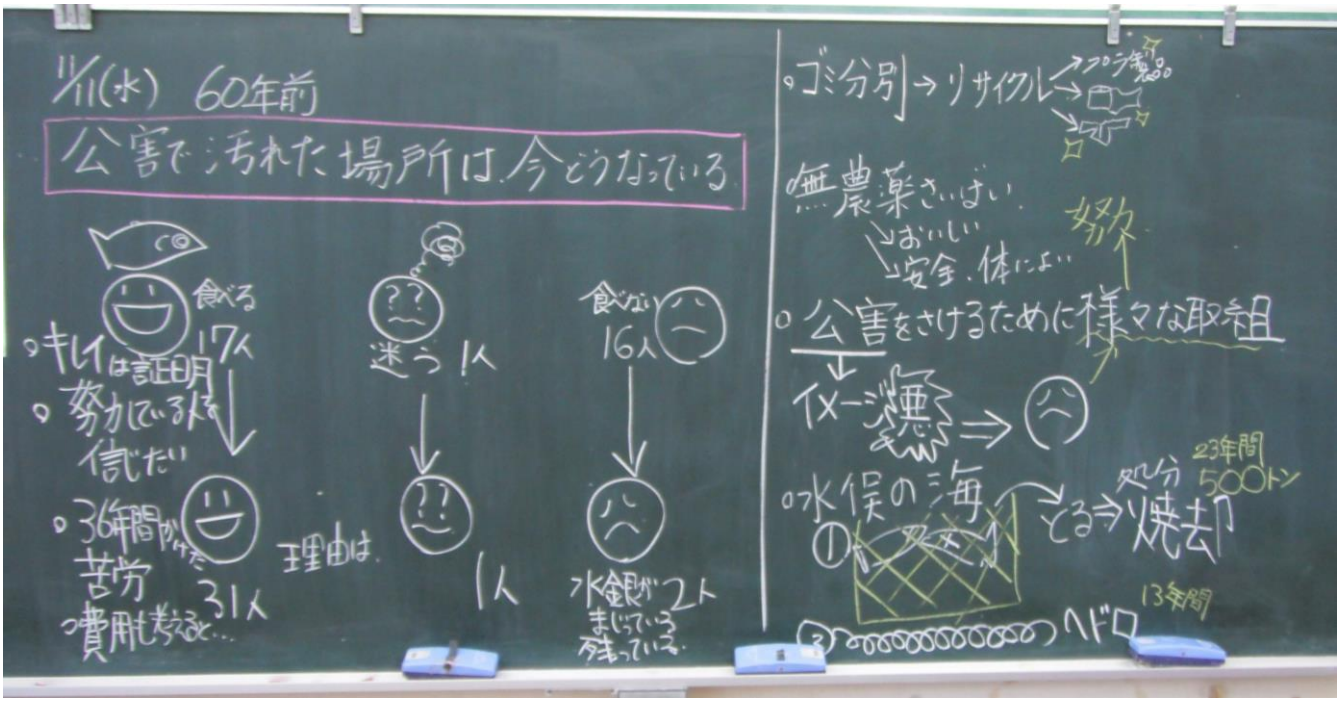
ねらい　水俣病の病状や原因、被害の実態を学習したことを基に、安全宣言が出された水俣市の現在の取組「環境にやさしい町づくり」や公害を乗りこえた地域の様子と環境を守る人々の営みを続けていることについて考える。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	公害被害で、汚れた場所（水俣市）は、今どうなっているでしょうか？		
	○熊本県は、1997 年に水俣湾で獲れる魚介類を食べても大丈夫だとする安全宣言を出した事実を示す。	・1953 年に水俣病発症してから、安全宣言が出るまで 44 年間もかかって、きれいな海を取り戻したね。	現在の水俣市の写真
	あなたは、水俣の海で獲れた魚を　食べますか？　食べませんか？		
		食べる　…1 組１７人／2 組　８人 食べない…1 組１６人／2 組２２人 迷う　　…1 組　１人／2 組　０人	
30	水俣市の取組を調べよう		
	資料を提示し、考えさせる。 ○汚染された水俣湾の処理作業 ①23 年間で汚染された魚 477ｔ処分 14 年間で水銀を含んだ海底へドロ埋め立て（58.2ha 東京ドーム 13.5 個分） ②埋め立て処理費用は 485 億円 ③埋め立てた場所は、現在、エコパーク水俣（公園） ○環境にやさしいまち「水俣市」 ①ごみの分別回収で、ごみゼロ ②お茶農家の取組で、農薬ゼロ ○公害をなくすための行政の取組 ・国は公害対策基本法令を出した ・県や市は公害防止条例を出した	・水銀で汚染された海や魚は、どうしたのかな？ 汚染された魚が逃げない（仕切り網）ようにしたよ。埋め立て工事は、汚染された場所を鉄板で区切って埋めたけど、土の汚染は？ ・今は、サンゴが生息するほどきれいな海になっているよ。 ・四大公害病の他の場所は、今どうなっているのかな。 ・新潟水俣病が発生した阿賀野川は、今どうなっているのかな？ ・阿賀野川は、1978 年に安全宣言が出されたよ。	水俣病資料館ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ NHK 番組「未来広告ｼﾞｬﾊﾟﾝ」環境にやさしい町 水俣 新潟県「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」 教科書や資料集
10	安全宣言された現在の水俣湾でとれた魚を食べますか？食べませんか？		
	・再度、導入時と同じことを問い、自分の考えが学習によって変化、強化したか。また、その理由をノートに書かせて、まとめさせる。	食べる　…1 組３１人／2 組１３人 食べない…1 組　１人／2 組　８人 迷う　　…1 組　２人／2 組　９人	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

授業開始時
・水俣の魚だから食べないのは、差別だから食べます。
・安全宣言が出て、水俣の海がきれいになったと言っているから、食べます。
・大きな公害が起きた場所だから、もしかしたらと思うと食べたくないです。
・たくさんの被害者が出た場所の魚だから、大丈夫って言われてやっぱり心配だから食べません。

授業終了時
・私は今日の学習をして、水俣の魚を食べてみようという気持ちになりました。国が法律までつくって、みんなが海をきれいにすることに協力しているからです。
・大変だけど無農薬で食べ物を育てる農家の人の話を聞いて、水俣に住んでいる人のことを考えたら、食べたいと思います。
・ゴミをリサイクルして環境を守るまちづくりを水俣市に住んでいる人たちが協力して、きれいな環境にしようと努力していることが分かりました。だから、ぼくは食べます。
・汚染された魚と海底のヘドロも全部埋め立てたと分かったので、水俣の魚を安心して食べたいと思うようになりました。
・今日の学習をして、昔に比べてすごく変わり、海がきれいになって安心なのは分かるけど、やっぱり食べたくないです。ですが、公害の時のことを生かして、安心できる製品を作っていて、すごいと思います。
・どうやって、汚染された魚やヘドロを埋め立てたのか知りたいです。もしも、地震とかで壊れたらと思うと心配です。



（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	妙高市立新井中央小学校	担当(職・氏名)	教諭　田篠　京子 教諭　江戸　愛
学習テーマ	私たちの食と命～気付こう、考えよう、行動しよう～		
活動のねらい	・米について調べたり、生き物を自らさばいて食べたりする活動を通して、命をいただくことやそのために行っている人間の行為の意味を問い直そうとする態度を育む。 ・新潟水俣病に関する調査活動を通して、人間と食、環境とのつながりについて自分の考えをもったり、いわれのない偏見や差別の解消のために行動しようとする気持ちを高めたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・資料や新聞を活用することにより、阿賀野川流域の人々の生活や新潟水俣病の原因や症状、被害や裁判の様子についての理解を深める。

・「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行う。語り部の方から直接体験談を聞き、偏見や差別の現実を深く理解する。

・新潟水俣病に関する学習を通して学んだことを生かし、差別や偏見の解決に向けて、自ら行動しようとする意欲を高める。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

①米作り農家の方の指導を受けながらの米作りをする。(4 月～10 月)

②米や生きている魚（ニジマス）の調理を通し、命をいただくことについて考える。(9 月～10 月)

③各種資料活用し、新潟水俣病の概要を知る。(9 月)

④新潟水俣病にかかわる現地学習会を通して、被害者の思いや願いを理解したり、差別解消のために行動しようとする気持ちを高めたりする。(10 月)

⑥新聞に連載されている新潟水俣病についての記事を読んで、さらに理解を深める。(10 月)

⑤食と命に関する体験や学びを、学習発表会で保護者に向けて発表する。(10 月)

⑦食と命についての学習を振り返り、差別や偏見をなくし、よりよく生きていくために自分が大切にしたいことを表現する。(11 月～12 月)

○　活動詳細

実施期間	令和２年９月～　令和２年１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病に関する学習（新潟水俣病現地学習会を含む）	2	DVD 資料などを用いて、新潟水俣病の原因・被害の様子などを理解する。
	4	環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部の講話を聴いたり、展示資料を見たりして、被害者の心情を理解し、差別解消のために自ら行動する気持ちを高める。

	５	新潟水俣病に関する新聞記事から、被害者が心や体の苦しみに耐えながら前向きに生きる姿に共感し、自らできることは何かを考える。
学びに基づく表現活動	１０	学びから得たことを、学習発表や作文で表現する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・稲作指導：長澤　政敏様、春美様（地域住民）
・現地学習：山﨑　昭正様、小武　節子様（新潟水俣病 語り部）
・新聞記事：水澤　洋様（新潟水俣病被害者）

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

《成果》

・川魚を自ら調理し食べたことにより、川からの恵みがあること、命をいただいて今の自分の命があることを実感できた。初めはかわいそう、怖いと思っていた児童も、「私たちが生きていくために命をいただいている。」と感じるようになっていった。「川は人間だけのものではなく、人間を含めた多くの命を育む所」だということに気付いた。
・DVD などの資料より、児童は新潟水俣病に関する科学的知識を学び、自分に分かる言葉に直したり、要約したりしながら理解した。その上で、環境と人間のふれあい館を訪れ、語り部である山﨑様、小武様のお話を聴き、体と心の苦しみに耐えながら、前向きに生きる姿にふれた。児童は、不当な差別に憤りを感じ、自分に何ができるのかを考えるようになった。
・新潟水俣病について理解を深めた児童は、「水俣病についてもっと知りたい」「この正しい真実をたくさんの人に伝えたい」という思いをもった。
・新潟水俣病の被害者に関する新聞記事からは、過去に受けたひどい差別や現在の生活の様子などから、正しい知識が広まっていないために、未だに根強く残る偏見があり、それらによって今でも苦しみ続けている人がいる現実を目の当たりにした。
・自分の思いや考えを作文に表す活動では、学びを振り返る場として有効であった。子どもたちの素直で前向きな気持ちが表れており、差別や偏見をなくそうという強い思いを感じることができた。

《課題》

・差別や偏見を許さない気持ちは芽生えているが、生活の中で差別や偏見につながる言動をしていないかを常に振り返り、それらに自ら気付く鋭さをもてるように今後も支援を続ける必要がある。
・新潟水俣病、環境学習で学んだことを生かし、全ての人がよりよく生きるために、自信をもって正しいことを行動に移すことができるようにしていきたい。言葉だけではなく、一歩踏み出す勇気をもたせたい。
・新潟水俣病に関する学びを、６年生で行う「あらゆる差別を許さない」意識につなげるため、早めに計画を立てて指導にあたる。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
妙高市立新井中央小学校	**5年1組（27人） 5年2組（27人）**	**10月9日**	**同和教育 関連学習**	**教諭　田篠　京子 教諭　江戸　愛**

主題名　新潟水俣病への差別をなくすために行動する

資料名　「素顔～新潟水俣病被害者の暮らし～」（「新潟日報」　一部省略）

ねらい　新潟水俣病の被害者が体と心の痛みに耐えながら、前向きに生きる姿に共感することを通して、発生から５５年過ぎた現在でも、根強く残っている差別や偏見に憤り、自分には何ができて、何をすべきなのかを考えて、差別や偏見の解決に向けて、自ら行動しようとする意欲を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○水澤さんの人生を振り返り、命の川が汚染されたことが原因で新潟水俣病になったことを確認する。新聞記事の写真を提示して、記事を読む。		「素顔～新潟水俣病被害者の暮らし～」（「新潟日報」一部省略）
	水澤さんは、阿賀野川でどのようなことを祈っているのでしょう。		
	○これまで学習した板書を掲示しておき、被害者のさまざまな思いや願いを引き出せるようにする。	・手足のしびれや耳鳴りの症状がよくなりますように。 ・水俣病で差別をする人がいなくなりますように。 ・阿賀野川がずっときれいでありますように。	
15	○記事の続きを読み、水澤さんは新潟水俣病であることを就職してからも、結婚してからも隠していたことを伝える。		
	偏見や差別は、残念ながら現在でも残っています。発生から５５年が過ぎており、原因が分かっているにも関わらず、なぜ水俣病への偏見や差別が続いているのでしょうか。		
	○新聞記事の内容をまとめた短冊を掲示して、ポイントをおさえる。	・水俣病は、見た目では分からない病気だから。 ・病気について正しいことを知らなくて、うわさを信じているから。 ・保証金をもらっている人をうらやましく思い、ねたむ気持ちがあるから。	

20	○水沢さんから児童へ宛てた手紙を読み、水沢さんの思いを伝える。 新潟水俣病の被害者の気持ちを考えない、理解しようとしない態度が、何の罪もない被害者を今でも苦しめています。このような差別や偏見をなくすため、そして水沢さんの思いに応えるために、皆さんがするべきことは何だと思いますか。 ○相手への不理解から生まれる差別が自分のこれまでの生活の中でなかったか振り返り、人とかかわる中で大切にしていくことを考え、実践しようとする気持ちを高める。 	・命の川からの恵みである魚を食べていただけで、何も悪くないのに、被害者は何年も苦しい思いをしているなんてひどい。 ・現在も差別が続いていることや、差別は絶対にいけないことだと家族や他の学年にも伝えたい。 ・なんとなく聞いた噂やイメージ、印象だけで勝手に決めつけたり思い込んだりすることはいけないことだ。正しいことを自分の目や耳で確かめることが大切だ。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・水沢さんは、苦しんでいる人に早く安心できる日が来てほしいと願っていた。新潟水俣病の被害者の苦しみをたくさんの人に広めたい。
・水俣病のことをもっと知って、知り合いやまだ水俣病のことを知らない人に知らせたい。
・「かわいそう」で終わるのではなく、差別や偏見があれば「自分がされたらどう思う。」と聞くなど、行動に移す。
・苦しさを分かり合う心をもって行動し、時々自分の行動を振り返り、日々を過ごす。
・自分ではよく分からないうわさを信じたり、他の人に話したりしない。
・正しいことを確認して、自分の意思で行動する。
・困っている人がいたら、まずどうしているかを聞く。他の人と一緒にすることで、できることもあることを伝える。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立五泉小学校	担当(職・氏名)	4 年担任 教諭・八木恵子　細山卓真
学習テーマ	五泉市に生息する魚トゲソを導入として、水の汚れや環境問題についての基礎を学ぶ。阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。		
活動のねらい	○きれいな水に棲む魚トゲソの生態と環境を学び、人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ○川の汚れがどこから出ているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶことで環境を守る意識を高める。 ○「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居を見て作者である旗野さんの話を聞く。新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知ったり、公害について学んだりすることで、環境を守る意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること、また水を汚したことにより近くの阿賀野川で水俣病が発生したことを知る。３大公害事件としての新潟水俣病を知る。患者さんの支援をしている旗野秀人さんを呼んでお話を聞く。「阿賀のお地蔵さん」の絵本を見て考える。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

◇人間が川を汚してトゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。人は生活によって様々な汚れや負荷を地球にかけていることを学ぶ。水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。現在起きている環境問題に対しどのように考え行動していったらよいかを調べ学習を通して考える。

◇公害という事件が、近くの阿賀野川で起きたことを知る。その公害に係わり患者さんの支援をしてきた旗野秀人さんの話を聴き、また紙芝居に登場する旗野秀人さんから公害の実態を知る。

○　活動詳細

トゲソの会 2 名の講師より来ていただき３回にわたってトゲソの授業や水の浄化実験を行った。７月には紙芝居を見て、講師旗野秀人さんよりお話を聞いた。

実施期間	令和２年６月～９月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 4 年生 6 月 3 日（水）	8:35　～ 12:20	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？ 2 クラス別々に実施
② 4 年生 6 月 17 日（水）	8:35　～ 12:20	水の循環。水の旅を考える。 水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水実験 2 クラス別々に実施
③ 4 年生 7 月 1 日（水）	8:35　～ 12:20	水の浄化実験。新潟水俣病の事。どうしたら水を汚さないようにできるのか。 2 クラス別々に実施
④ 4 年生 ７月 22 日（水）	10：45～ 11：30	絵本「阿賀のお地蔵さん」を見る。 旗野秀人さんのお話を聞く。

⑤ 9月25日	14：10～ 14：55	今までの学習をまとめ、発表する。

○　協力団体・協力者等

特定非営利活動法人五泉トゲソの会

安田患者の会　旗野秀人さん

○　成果と課題

【成果】

　総合学習で五泉市に生息する絶滅危惧淡水魚トゲソを通して、水循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学んだ。成果は新潟水俣病など私たちがいかに水を汚してきたかが分かった。

　絵本「阿賀のお地蔵さん」を通して水俣病の発生から患者さんの苦しみを聞くことができた。このことにより、児童一人一人が，環境の保護が大切であることを意識するようになった。

【課題】

　今年度は、現地学習が中止となり、川での生き物調べやザリガニの駆除ができなかった。また、実際に「阿賀のお地蔵さん」を見学することができなかった。学習を通して、トゲソや新潟水俣病について関心をもった子どもたちが、現地学習できなかったことが残念だった。

【活動成果参考写真】







①　6月3日トゲソを知る　　②6月17日水の循環・ＣＯＤテスト　③7月1日　浄化実験





④7月22日　　⑤9月25日学習の成果を発表

阿賀のお地蔵さんのお話会

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉小学校	２クラス（67 人）	４回	総合学習	教諭 細山卓真・八木恵子

主題名　五泉の水学習

ねらい　五泉の水を学ぶことにより、絶滅危惧種のトゲソや新潟水俣病の事を知る。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
① 6/3 180 分 ×2 回	トゲソのことを知ろう。 トゲソってどんな魚だろう。	トゲソを見て、特徴を知る。 トゲソの数が減少している理由を考える。	トゲソ
② 6/17 180 分 ×2 回	水の循環について考えよう。 水の汚れを調べよう。	水の循環について、カードを並べながらグループで考える。 COD テストを行い、水の汚れを調べる。	水の循環カード
③ 7/1 180 分 ×2 回	水の浄化実験をしよう。 新潟水俣病について知ろう。 どうしたら水を汚さないようになるのか考えよう。	水の浄化実験を行い、どうすれば水が浄化されるかを知る。 新潟水俣病について知り、水を汚している原因が人間であることから、どうすれば水を汚さないようにできるかを考える。	エコ製品等
④ 7 /22 45 分	絵本「阿賀のお地蔵さん」を見よう。 旗野秀人さんに新潟水俣病についてのお話を聞こう。	絵本の登場人物が旗野さん本人であること知り、新潟水俣病や「阿賀のお地蔵さん」について知りたいことを質問する。 新潟水俣病についてや患者さんについてのお話を聞く。 	「阿賀のお地蔵さん」絵本

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

子どもたちの作文ー別紙のとおり

（別紙）

子どもたちの作文

・ トゲソの学習では、僕の知らないことをいっぱい知ることができました。水をろ過の実験では、にごった水がどんどんきれいになり、ものすごく透明度が高くなってとてもびっくりしました。トゲソの学習は、実験もたくさんでき、とても楽しかったです。でも、一つだけ悲しかったことがありました。それは、「水俣病」です。わけは、工場から出た水銀が川に流れ出て、たくさんの人が苦しんだからです。これからは、環境などをはかいしないで、水による病気をなくし、さらに海などに捨てられたゴミなどを拾って地球を守っていきたいです。

・ 五泉にいるトゲソは、じゅみょうが１年間しかないということがわかってびっくりしました。また、トゲソにはけっこう仲間がいることがわかりました。これから、トゲソの仲間のことや、海や川などの環境をよごさないようにしている人達のこと、環境にやさしいせっけんなどについて調べていきたいです。また、トゲソの天敵はアメリカザリガニだということもわかりました。外来種によって、トゲソの数が減っているということを知っておどろいたので、外来種をへらしたいと思いました。

・ トゲソの学習では、いろいろなことがわかりました。天敵のザリガニが来たら、お父さんがおとりになり、その間に赤ちゃん達は逃げます。それを人間にたとえると、とてもいいお父さんだなと思いました。また、トゲソはすごく名前をたくさん持っていて、おどろきました。今度、トゲソを観察したいです。トゲソがいなくなった原因が、人間が川にゴミを捨てるということもわかりました。ゴミはきちんとゴミ箱に捨て、川をきれいにして安心してトゲソがくらせるようにします。

・ 私は、旗野さんに「阿賀のお地蔵さん」という本を読んでもらって、水俣病のことを知ることができました。熊本の水俣市というところから始まったということ、お地蔵様は水俣市から持ってきた石を使って作ったということがわかりました。それに、わたなべさんじさんは、１００才をこえるまで、民謡を歌って水俣病になった人を元気づけたいという気持ちがすごいなあと思いました。さんじさんが歌っていた歌が、どんな歌か聞いてみたいと思いました。

・ 熊本県で起こった水俣病は、とてもこわい病気だということがわかりました。手や足がしびれたり、手が曲がってゆがんだり、いろいろ大変だったんだなあと思いました。そして、亡くなった人もいて、とても悲しい思いをした人がたくさんいたんだなあと思いました。でも、その中で水俣病を乗り越えて１０３才まで生きたわたなべさんじさんは、すごいと思いました。あきらめずに１００才でも歌を歌っていたので、わたしもあきらめないことは大切なんだと思いました。「阿賀のお地蔵さん」をぜひ見てみたいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立五泉南小学校	担当(職・氏名)	４年　教諭　間嶋　紀子　他２名 ５年　教諭　長谷川由佳　他１名
学習テーマ	４年総合的な学習…五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。 ５年社会科……社会科の公害について学習する単元において、新潟水俣病の発生と被害について学ぶ。		
活動のねらい	４年…きれいな水にすむ魚トゲソについて学び、人間が生活する上で川などの自然にどれだけ負荷をかけているかを知ることができる。川などの汚れの原因を知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶことができる。 ５年…「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

４年…人間が川を汚したことが原因でトゲソが絶滅に瀕していることを知る。そして、人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。これらの環境問題に対して一人一人がどのように考えたらよいのかをグループで考える。

５年…社会科の授業で公害について学び、阿賀野川を汚染して新潟水俣病が発生した事例を学ぶ。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

４年…五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学んだ。子どもたちは、トゲソは簡易ＣＯＤパックテストなどにより、家庭からの排水汚れが絶滅の原因であることを知る。そして、トゲソだけでなく、近くの阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことについても学んだ。その後、水の浄化実験を通して、水を汚さないためにはどうしたらよいかを考えた。

５年…阿賀野川で起きた公害について、その背景や新潟水俣病の被害に関する話を聞いた。

４年・５年…トゲソの学習や新潟水俣病の学習の成果を校内で発表する予定だった。

○　活動詳細

４年生は４回にわたってトゲソの関連で授業、実験を行った。５年生は３月に旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき、新潟水俣病について、子どもたちの質問に答えていただいた。２～３月は校内発表会に向けて発表準備を進めた。

実施期間	令和２年５月～令和３年３月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 5 月 28 日（木）4 年生	8:40～10:10 10:40～12:10	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？
② 6 月 11 日（木）4 年生	8:40～10:10 10:40～12:10	水の循環。水の旅を考える。水の汚れを調べる。3 種類の水のＣＯＤテスト。

③ 6月25日（木）4年生	9:25～10:40 10:45～12:15	水の浄化実験。新潟水俣病の事。どうしたら水を汚さないようにできるのか。
④ 9月17日（木）4年生	9:35～12:15	「みなみの泉」のトゲソの数生息調査。
⑤12月10日（木）4年生	8:30～10:20	総合的な学習の時間で学んだことの発表会。
⑥ 3月 3日（水）5年生	10:40～11:25	旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせ。新潟水俣病に関わる質問に答えていただく。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人五泉トゲソの会

旗野　秀人さん

○　成果と課題

【成果】

４年生…五泉市に生息する身近なトゲソという淡水魚を通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学ぶことができた。新潟水俣病を含め、私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、一人一人が環境の保護がいかに大切かを意識するようになった。また、私たちにできる環境保全について考えるようになった。

５年生…社会科の学習で、４大公害病や新潟水俣病について、教科書や新潟水俣病資料館からいただいた資料を参考にして学んできた。しかし、過去のできごとと感じている児童が多くいた。今回、旗野秀人さんからお話を伺うことで、今も新潟水俣病に認定されずに苦しんでいる人たちがいることを知ることができた。また、新潟水俣病のことを多くの人に知ってもらい、二度と起こさないでほしい、地域の絆を取り戻したいという旗野さんの思いにふれることができた。

【課題】

４年生…校内ビオトープやトゲソ生息地での活動が中心となり、新潟水俣病や阿賀野川については話を聞くだけになった。今後、早出川の水質調査や、阿賀野川の調査活動などを通して、探究範囲を広げ、５年生の新潟水俣病の学習につなげていきたい。

５年生…新潟水俣病の社会科の最後の単元で、調べ活動に多くの時間をかけることができなかった。今回は、旗野さんへのお礼の手紙で学習を振り返り、表現活動を行ったが、家庭や地域に発信することができるとなおよかった。

【活動成果参考写真】



① 5 月 28 日トゲソを知る



② 6 月 11 日水の循環を考える



③ 6 月 25 日水の浄化実験



④ 9 月 17 日トゲソ生息調査



⑤12 月 10 日発表会



⑥ 3 月 3 日新潟水俣病学習

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉南小学校	**５年１･２組（６０人）**	**３月３日**	**社会**	**教諭　長谷川由佳**

単元名　**環境をともに守る**

ねらい　**「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20	・旗野秀人さんに自己紹介してもらう。 ・旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。 	○「眉毛の太いおっちゃん」は旗野さんだったんだ。 ○水俣病で亡くなった人がたくさんいて、今も苦しんでいる人がいるんだ。 ○水俣病は人間が引きおこしたものなんだ。 ○阿賀のお地蔵さんは、熊本県水俣市の石で作られたんだ。	・「阿賀のお地蔵さん」のプリント ・パワーポイント（絵本の絵）
20	旗野さんに質問しましょう。 ・事前に新潟水俣病についての質問を考えさせ、質問するよう指示する。 	○水俣病患者の数は分かっていないんだ。認められた人は 700 人ほどで、認められていない人がたくさんいるんだ。ニセ患者と言われて差別された人もいたんだ。 ○工場が流した水銀が、プランクトン→魚→人間と、食物連鎖で人の口に入り、病気になったんだ。 ○お地蔵さんの力を借りて、昔の絆を取りもどしたいと思って、お地蔵さんを作ったんだ。子どもたちに水俣病を知ってもらいたいと思って、絵本を作ってもらったんだ。 ○水俣病のおばあさんから、水俣病の話を聞こうとしたが、最初は断られたん	

		だ。でも、お茶のみ話をするうちに、水俣病だけでなく、川のくらしも伝えたいと思い、やりがいを感じて 50 年やってこられたんだ。 〇今、阿賀野川の魚を食べて水俣病になることはないんだ。でも、水俣病と認められず、今も戦っている人はいるんだ。 〇昭和電工の流した水銀が原因だったんだ。阿賀野川の大量の水でうすまると思っていたんだ。昭和電工はビニルなど、くらしに役立つ物をたくさん作っていたんだ。昭和電工だけが悪いわけではないんだ。 〇旗野さんは、マッチ 1 本で燃える家を作っているんだ。それは、すべて自然に帰り、処分に困る物は使わないということなんだ。	
5	・振り返りを書かせる。		

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・水俣病は自然ではなく、人間が作り出したものだということを忘れたくないです。川をきれいに保ち、水俣病などが二度と起こらないようにしたいです。

・まだ、水俣病と認められていない人がたくさんいると知って、いたたまれない気持ちになりました。お地蔵さんにこめられた、差別をなくし、昔のきずなを取りもどしたいという願いを、未来につなぎたいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

校名	五泉市立川東小学校	担当(職・氏名)	教諭　川上　弘宜
学習テーマ	ふるさと五泉　水の里		
活動のねらい	トゲソに関する調査活動、川の環境を守る取組をしている人々とかかわる探究的な学習を通して、 ②　トゲソの生態や生息環境、人々のかかわりについて理解させる。 ②課題の解決に必要な情報を収集・比較・分類・関連付けて考える力や表現する力を育成する。 ③進んで生物や人々にかかわり、それぞれが暮らしやすい環境にしていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・水環境が侵された歴史、罪のない人々が昔も今も苦しんでいる事実を正しく理解する。

・水環境を守る大切さを一人一人が考え、水環境を守る実践者としての意識を高める。

○　活動概要

（１）トゲソハウス（ビオトープ）の清掃、維持活動の中から、トゲソの生態や生息環境、使われている水などに関心をもつ。

（２）トゲソの会の講師とともに、トゲソの生態や生息環境、水の循環、水の浄化などトゲソにかかわる学習をし、トゲソに関する知識を深める。

（３）トゲソの生息地の水質、環境調査を行う。また、外来種の駆除活動にも参加する。活動を通して、人が自然（水環境）を維持、守っていく必要があることを理解する。

（４）学校近くの小川（新江川）の水質調査、トゲソや水生生物の生息数調査を行い、身近な水環境がきれいであることを理解する。

（５）新潟水俣病が発生した現地と環境と人間のふれあい館の見学、語り部の方との交流を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境保全の大切さを理解する。

（６）自分たちの学んだことをどのように伝えるか考え、発表する。また、まとめとして「新潟水俣病環境作文コンクール」に出品する。

○　活動詳細

実施期間	２０２０年４月　～　２０２１年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソハウスの清掃活動 トゲソの観察	５ （常時活動）	トゲソ・水草・水の観察、清掃などの活動を通して、トゲソや水に興味をもつ。
トゲソや水についての学習会、学習会の振り返り	２０	トゲソの生態、水の循環や浄化方法、トゲソの生息地の水質調査、外来種の駆除活動、トゲソや水生生物の生息数調査などを通して、トゲソや水を大切にしようとする心情を育てる。

新潟水俣病学習 生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」 新潟水俣病教師用指導資料集	５	新潟水俣病の症状や発生原因を学ぶ。 新潟水俣病裁判で患者さん側が勝ったことが、歴史的なものであったことを理解する。 患者さんたちが一番苦しかったのはいわれのない差別を受けたことであったことを理解する。
発信活動	１５	トゲソや水環境、新潟水俣病に関して学んだことをまとめ、発信する。また、さらに学びたいと考える環境に関する課題を自ら選択し、調べ活動を行い、まとめる。 作文にまとめ「新潟水俣環境賞」に応募する。
○　協力団体・協力者等 ・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会（中村　吉則様） ・新潟水俣病患者の会（旗野様） ・新潟県立環境と人間のふれあい館	１５	新潟水俣病に関する施設の見学や語り部の方との交流を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境を守っていこうという心情を育てる。

○　成果と課題

【成果】

・本校には元々ビオトープ「トゲソハウス」がある。子どもたちは、日頃から目にしたり学習発表会で見聞きしたりしていたこともあり、抵抗なく導入が進み、トゲソの学習に意欲的に取り組むことができた。
・トゲソの会、新潟水俣病患者の会、環境と人間のふれあい館、その他の見学施設の協力を得ることができ、トゲソや水の循環、新潟水俣病に関して体験的に学習を進めることができた。
・外来種に住処を奪われ始めたトゲソのこと、住処を奪った側の外来種も、その場で懸命に生きていることを知り、生態系の在り方や一つ一つの命の重みを考えるようになった。
・新潟水俣病患者の方の苦しさを学ぶことを通して、自他の権利を大切にしようと考えるようになった。
・学習を進める中で、水の使い方をふり返り、水は資源であることを理解し、水の使い方を改める姿が見られた。

【課題】

・今回の学習をまとめ、発表して終わるのではなく、今後は環境保全、改善に向けた発信者として、子どもたちを活躍させていくには、どのように取り組むとよいのか、検討する必要がある。

写真資料



４月から続けてきたトゲソハウスの清掃。トゲソハウスに落ちたごみを網ですくったり、伸びすぎた水草を適切な長さに切りそろえたりした。



トゲソ学習会①。トゲソの生態について教えてもらった。その後、トゲソが数を減らしている理由について、みんなで考えた。



トゲソ学習会②。水の循環について考えた。また、生活で使用した水、水道水、新江川の水などの水質調査を行った。



トゲソ学習会③。トゲソの生息地の自然の豊かさを確認した。また、外来種の駆除活動に取り組んだ。



トゲソ学習会④。フィルターや活性炭を使用し、よごれた水を浄化する実験を行った。



トゲソ学習会⑤。新江川の水質調査を行い、その後、トゲソや水生生物の採集を行った。



新潟水俣病の症状、発生原因、裁判の様子について学習した。
患者さん側が勝った最初の公害裁判として歴史的なものであることを理解した。



新潟水俣病患者の会の旗野様に来ていただき、「阿賀のお地蔵様」を読んでいただいたり、患者さんが苦しんだ差別・偏見についてお聞きしたりした。



環境と人間のふれあい館を訪れ、水質検査をしたり、新潟水俣病について資料を見ながら話を聞いたりした。



阿賀町鹿瀬に出かけ、旧昭和電工鹿瀬工場の全景や水銀が見付かった排水口などを見学した。



学習発表。コロナ禍のため録画したものを、３年生に見てもらった。

一年間で学んだことの中で一番心に残ったことを作文に書いた。「新潟水俣病環境賞」に応募する。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立川東小学校	１クラス（27 人）	R2.11.19	総合学習	教諭・川上　弘宜

主題名　「どちらが勝った?」

ねらい　新潟水俣病裁判で患者さん側が勝ったことが、後の公害裁判に影響を与える歴史的なものであったことを理解する。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	工場は、責任を認めただろうか? 実際に、工場は責任を認めず、裁判になりました。 裁判は、工場、患者さんのどちらが勝ったでしょう?	ほとんどの人が「認めなかった」と考えた。 ・患者さんが出ている阿賀野川下流から遠い。 ・もう水銀を流していない。 ・認めたら大きな責任をとらなければならない。 ノートに自分の考えを書いてから発表 「工場が勝った」と考える子ども 下流にしか患者さんがいない。 ・お金があるので、たくさんの弁護団がついているんじゃないか。 「患者さんが勝った」と考える子ども ・食物連鎖で水銀がたまっていくから。 ・応援する人たちがたくさんいた。 ・困っている人が勝つのが当たり前。	工場写真
30	「工場の弁護として、横浜教育大学の先生が、新潟地震のせいで、川が逆流し、洪水が起きて、倉庫にあった農薬の水銀が、阿賀野川下流に広がった。と述べました。」 患者さんが勝つには、この説をくつがえさないといけません。何が見つかればよいですか? 実際の裁判でも、 ・工場の排水口近くの苔から水銀が見付かったこと。 ・中流で水俣病にかかった猫や患者さんがいたこと。 ・新潟地震より前の患者さんの髪の毛から水銀が見つかったこと。 を弁護団が突き止めました。	・洪水がおきていない中流や上流で患者さんが見つかればいい。 ・工場から水銀が流れていた証拠が見つかればいい。 ・新潟地震の前から、患者さんがいた証拠が見つかればいい。  	坂東克彦弁護士特別講演録名古屋市立大学
40			

	・1971 年。ついに患者さん側が勝つ判決が出ました。 ・これは、日本で初めて患者さん側が勝った公害裁判です。 ・この結果は当時大問題になっていた「四大公害裁判」に影響し、すべての裁判で患者さん側が勝つことにつながりました。	判決の様子の写真を見る。 四大公害裁判の地図を見る。	新潟水俣病教師用指導資料集

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

子どもたちの作文－別紙のとおり(一部) 「新潟水俣病環境作文コンクール」に全員が出品。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立川東小学校	1クラス（27人）	R2.11.16	総合学習	教諭・川上　弘宜

主題名　「原因となった工場は、どこにあった?」

ねらい　新潟水俣病の原因となった工場が、患者が多数発生した阿賀野川の「下流」ではなく、遠く離れた「上流」にあったことを理解する。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	「新潟水俣病」について説明。 ・阿賀野川の下流で、水俣病が発生したこと。 ・症状 ・原因はメチル水銀が含まれる魚を食べたこと	提示された写真を見る。	新潟水俣病教師用指導資料
10	新潟水俣病の原因となった工場が、阿賀野川の「下流」「中流」「上流」のどこにあったか	自分の考えをノートに書いてから発表。 「下流」と考える子ども(一番多い) ○新潟市の中心に近い下流には、人口も多く、たくさんの工場がある。 ○実際に阿賀野川の下流にたくさんの患者さんが出ている。 「中流」と考える子ども ○中流の五泉近くに工場がたくさんある。 「上流」と考える子ども ○上流から流された水銀が、だんだんたまっていったのではないか。 ○小さな魚が水銀を食べて、それを大きな魚が食べて、下流に行くほど、だんだん水銀がたまっていったのではないか。	
40	「その工場は、鹿瀬というところにありました。」 その工場は、「昭和電工鹿瀬工場」と言い、3000人もの人たちが働く、新潟県でも最大の工場の一つだったことを説明する。	●山の中の上流に大きな工場なんてないはず。 ●上流の工場が原因だったら、上流にも患者さんが多いはず。 地図で探し、阿賀野川の上流にあることが分かる。 写真資料を見る。	地図帳 工場全景

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立村松小学校	担当(職・氏名)	4 年担任　伊藤　恭子
学習テーマ	4 年総合的学習で五泉市に生息する魚トゲソを通して、水の汚れや環境問題の基礎を学ぶ。紙芝居・絵本を見て新潟水俣病を学ぶ。		
活動のねらい	きれいな水に棲む魚トゲソの生態と環境を学び、人間が川や自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。川の汚れがどこから出ているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶ。 近くの阿賀野川で起きた水銀汚染の新潟水俣病について知る。「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居を見て、登場する旗野秀人さんの話を聞く。新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること、また水を汚したことにより近くの阿賀野川で水俣病が発生したことを知る。患者さんの支援をしている簇野秀人さんからお話を聞く。「阿賀のお地蔵さん」の絵本を見て考える。（５年生も一緒に参加する。）

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

人間が川を汚してトゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。人は生活によって様々な汚れや負荷を地球にかけていることを学ぶ。水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。現在起きている環境問題に対しどのように考え行動していったらよいかを調べる。新潟水俣病の患者さんの支援をしてきた旗野秀人さんの話を聞く。また紙芝居「阿賀のお地蔵さん」を読み聞かせしてもらい、被害の実態を知る。保護者、５年生、トゲソの会の方にも参観してもらい学習の発表会を実施する。

○　活動詳細

トゲソの会 2 名の講師より来ていただき４回にわたってトゲソの授業、実験を行った。11 月 27 日には、保護者、５年生、トゲソの会を対象に、紙芝居と講師簇野秀人さんの話を聞く会を行った。

実施期間	令和２年５月～１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 6 月 8 日（月）	8:35　～ 12:05	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？
② 6 月 22 日（月）	8:35　～ 12:05	水の循環。水の旅を考える。 水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水実験
③ 9 月 11 日（金）	9:30　～ 11:40	学校脇に流れる滝谷川の水質を水生昆虫から調べる。 水温、透明度、生息する魚、川の様子などを調べる。
④ 9 月 15 日（火）	8:35　～ 12:05	水の浄化実験。新潟水俣病の事。どうしたら水を汚さないようにできるのか。

⑤ 11 月 24 日（火）	10：40～ 11：25	絵本「阿賀のお地蔵さん」を読み聞かせし、水俣病が身近なところで発生したことを伝える。
⑥ 11 月 27 日（金）	14:05 ～ 14:50	絵本「阿賀のお地蔵さん」を見る。簇野秀人さんのお話を聞く。保護者、５年生も参観し、学習発表会を行う。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
特定非営利活動法人五泉トゲソの会
安田患者の会　簇野秀人さん

【成果】

五泉市に生息する絶滅危惧淡水魚トゲソを通して、水循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学んだ。地域を流れる水は、きれいな水であることを知る一方で、トゲソのような絶滅危惧種がいることを知り、水を汚さないための行動が必要であることを学ぶことができた。

新潟水俣病などの事例を通して私たち人間がいかに水を汚してきたかを学んだ。絵本「阿賀のお地蔵さん」から患者さんの苦しみを聞くことができた。このことにより、一人一人が環境の保護が大切であることを意識するようになった。

地域の方から、村松の川の歴史について話を伺ったことで、水が貴重なものであること、現在に至るまでの歴史があって今があることを知る機会が得られた。

【課題】

児童が知ったこと、学んだことをもっと外（保護者や校内の他児童）に伝えたり、呼びかけたりする機会を設定すれば良かった。水俣病の起こりや現状について理解するには、5 年生の社会科の学習とも関連させて行うとより効果があると考える。子ども達の将来を考え、地域及び各種団体から協力をいただきながら、よりよい学習を展開していく必要がある。

【活動成果参考写真】



② 6 月 8 日トゲソを知る



②6 月 22 日水の循環・ＣＯＤ



③9 月 11 日滝谷川の水生昆虫調査



④ 9 月 15 日　水の浄化実験



⑤ 11 月 24 日　絵本読み聞かせ



⑥11 月 27 日　水俣学習・発表会

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立村松小学校	２クラス（56 人）	６回	総合学習	伊藤恭子・大湊拓朗

主題名　守ろう五泉の水環境

ねらい　五泉の水を学ぶことにより、絶滅危惧種のトゲソや新潟水俣病の事を知る。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
① 6/8 90 分×2 回 2 クラス	トゲソってどんな魚か知ろう	・トゲソがどんな魚なのかを、五泉トゲソの会の方から教えてもらう。 ・絶滅危惧種の存在を知るとともに、自分たちの住む地域に貴重な魚がいることを知り、興味関心をもった。	トゲソの生態調査資料
② 6/22 90 分×2 回 2 クラス	水の循環について考えよう 水の汚れを調べよう	・水がどのように循環しているかをグループ学習により考える。水は循環していることに気付く。 ・滝谷川の水、米の研ぎ汁、水道水の 3 種類の水質検査を行い、汚れの程度を調べる。生活排水は汚れが大きいことを実感する。	COD 簡易パックテスト 水の循環カード
③ 9/11 90 分×2 回 2 クラス	滝谷川の水質や水生生物を調べよう	・滝谷川に行き、水温調べ、透明度調べ、水質検査、生息する生き物調べを行う。たくさんの魚が生息していることが分かり、滝谷川の水はきれいな水であることを知る。	水生昆虫による水質検査判断資料
④ 9/15 90 分×2 回 2 クラス	水をきれいにしてみよう 新潟水俣病について知ろう	・台風後の川の水の状態を再現し、水の浄化実験を行う。 ・これまでの学習の振り返りとまとめを行った上で、新潟水俣病について話を聞く。	水の浄化実験セット
⑤ 11／24 45分	絵本「阿賀のお地蔵様」を聞こう	・挿絵を見せながら読み聞かせをする。 ・読み聞かせを基に、水俣病の原因や阿賀のお地蔵さんの概略を伝える。	絵本 阿賀のお地蔵さん
⑥11/27 70分 4･5年生 合同	五泉の水環境を考えよう	・旗野秀人さんを招待し、「阿賀のお地蔵さん」を読み聞かせしてもらう。 ・新潟水俣病について話を聞く。 ・5 年生も合同で話を聞く。（昨年実施できなくなってしまったため） ・水俣病について質問し、答えてもらう。	

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
15	五泉の水環境を考えよう  五泉の水環境を考えよう。 旗野秀人さんから水俣病についてお聞きしよう。	○はじめの言葉 ○４年生の学習発表 学習してきたことを発表する。(学習発表会で発表した内容。トゲソの学習をして知ったことや水と環境とのかかわりについて発表した。) ※保護者、５年生、トゲソの会の中村さん、後明さんも招待する	絵本 阿賀のお地蔵さん
45	旗野さんを紹介する。 絵本「阿賀のお地蔵さん」を読み聞かせしてもらう。	○読み聞かせを聞く。  ○質問をする。 ①水俣病で亡くなった人は何人ぐらいいるのか。 ②水俣病を治す薬はあるのか。 ③水俣病は人にうつる病気なのか。 ④水俣病は目に見える病気なのか。 ⑤水俣病と同じぐらいの病気はあるのか。	
10		○終わりの言葉 ○５年生から歌のお礼	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

○昔、水俣病という大きな病気が流行ったことを知って辛そうだと思いました。水俣病のことをまだあまり知らないので、調べて新聞にまとめようと思います。

○水俣病にかかっている人がたくさんいることを知って、びっくりしました。かぜ等を治す薬はあるけど、水俣病を治す薬がないことを知りました。新潟県以外にも水俣病にかかった人がどのぐらいいるのかを知りたいと思いました。

○水俣病は辛い病気であることが分かりました。水俣病でたくさんの差別が起きたことが分かりました。どうして差別されるのかが不思議でした。外国にも水俣病のような病気があるのか調べてみたいです。阿賀野川以外の他の川でも、魚を食べて水俣病になった事例はあるのか気になりました。水俣病が起きたから阿賀のお地蔵さんが作られたことにおどろきました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立愛宕小学校（４年生）	担当(職・氏名)	教諭・佐藤　将臣 教諭・大関　一教
学習テーマ	五泉市に生息する魚トゲソとの出会いを導入として、水の汚れや環境問題の基礎的な内容を学習する。その中の阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。		
活動のねらい	◇きれいな水に生息する魚トゲソの生態や置かれている環境について学び、人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ◇川などの汚れがどこから出ているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶことで環境を守っていこうという意識を高める。 ◇「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居を見たり、作者である旗野さんの話を聞いたりして、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、差別・偏見を許さないという意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソの生態に危機を及ぼしていること、また近くの阿賀野川で水俣病が発生したことを知り、患者さんの支援をしている簇野秀人さんを講師としてお話を聞く。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

◇川を汚したことによりトゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。人は生活によって様々な汚れや負荷を地球にかけていることを学んだ。水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知った。様々な環境問題に対しどのように考え、どう行動していったらよいかを一人一人が調べ学習を通して考えた。

◇かけがえのない五泉市の水環境を守る意識を高めるため、阿賀野川を汚した公害の事例を学んだ。紙芝居を見て、ここに登場する旗野秀人さんからお話を聞いた。

○　活動詳細

トゲソの会２名の講師より来ていただき３回にわたってトゲソの関連で授業、見学、実験を行った。５月末は助成対象外であるが事前授業をした。１０月には紙芝居を見て、講師簇野秀人さんよりお話を聞いた。保護者の皆さんに学習したことをＤＶＤにまとめ郵送した。

実施期間	令和２年５月～　１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
⑥ 5 月 26 日（木）対象外	8:35　～ 12:05	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？ 2 クラス別々に実施
⑦ 6 月　2 日（火）	8:35　～ 12:05	水の循環。水の旅を考える。 水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水実験 2 クラス別々に実施
⑧ 6 月 16 日（火）	8:35　～ 12:05	水の浄化実験。新潟水俣病の事。どうしたら水を汚さないようにできるのか。 2 クラス別々に実施
⑨ 10 月 7 日（水）	11:00 ～ 12:00	絵本「阿賀のお地蔵さん」を見る。 簇野秀人さんのお話を聞く。

⑩ 11 月 9 日（月）　～ 11 月 13 日（金）		学習発表会ウィーク。６グループに分かれビデオ撮影をする。
⑥ 12 月 24 日（木）		ＤＶＤ全家庭配付。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
特定非営利活動法人五泉トゲソの会
安田患者の会　旗野秀人さん

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

五泉市に生息する絶滅危惧淡水魚トゲソを通して、水循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学んだ。成果は私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、絵本「阿賀のお地蔵さん」を通して水俣病の発生から患者さんの苦しみを聞くことができた。このことにより、一人ひとりが環境の保護が大切であることを意識するようになった。また、私たちにできる環境保全について考えるようになった。

【課題】

今年度は昭和電工鹿瀬工場での現地学習会を見送ることとなり、急遽旗野秀人さんにおいでいただくこととなった。どちらの学習にもよさがあり、今後学習計画を立てる際にはどちらも活かすような学習過程の見直しが必要である。

【活動成果参考写真】



③ 5 月 26 日トゲソを知る



②６月 2 日水の循環・ＣＯＤテスト



③6 月 16 日　浄化実験



④ 10 月 7 日旗野さんのお話



⑤　11 月 9 日学習発表会ウィーク

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立愛宕小学校	４年１組（22 人） ４年２組（23 人）	10／2（金）	道徳	教諭・佐藤将臣 教諭・大関一教

１　主題名　「みんなが仲よくくらしていくために」（B-7 親切，思いやり）

２　ねらい

地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して，相手の立場を想像し，相手のことを考えた言動の大切さに気付き，自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

３　資料「お地蔵さんにこめられた願い」

（新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために…新潟水俣病教師用指導資料集 pp. 29～41）

４　本時展開

時間	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	（資料前段を読む）		本文配付
	T：当時の「阿賀野川のほとり」はどんな様子ですか。	C：仲良く暮らしていた。 C：強い絆があった。	資料１を掲示
	（資料中段を読む）		
	T：強い絆で結ばれていた村は，水俣病によってどうなってしまいましたか。	C：バラバラになった。 C：差別があった。 C：幸せでなくなった。	資料２を掲示
	T：どうすれば元の仲の良かった村に戻れるか，考えましょう。		
	T：ロールプレイ１をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ１をする。）	ワークシート
	T：Aさん役の人はどんな気持ちでしたか。	C：心が傷ついた。 C：責められている。	
	（資料後段を読む）	C：水俣病の人の気持ちが分からないのか。	資料３を掲示
	T：旗野さんはどのような方法で村を元通りにしようとしたのでしょうか。	C：お地蔵さんを作った。 C：お地蔵さんに村が元に戻るように願いを込めた。	
	（旗野さんの言葉を読む）		
	T：プリントのBに相手を思いやった言葉を書き，ロールプレイ２をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ２をする。） C：味方になってくれて嬉しい。 C：心の傷が治ったようだ。	ワークシート 下段に記入
	T：Aさん役の人はどんな気持ちでしたか。	C：患者の方は悪くない。助けてあげたい。	
	T：自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで手紙を書きましょう。	C：差別や偏見は許せない。 C：旗野さんの行動のおかげで絆が戻ってくるようで嬉しいな。	

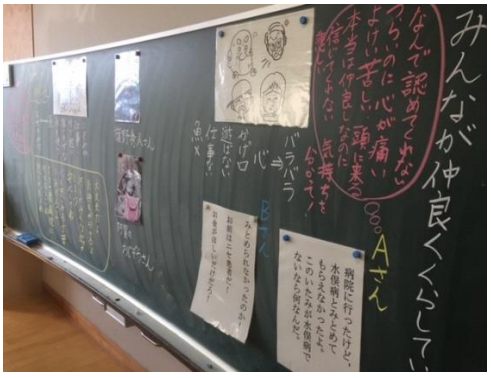
＜裏面に児童の感想＞

授業後に子どもたちが書いた作文（抜粋）

【水俣病と認められず，かげ口を言われていた人たちへ】

・かげ口を言われてつらかったよね。かげ口を言った人たちは本当にひどいと思います。
・水俣病になって，差別もされてつらかったでしょう。その気持ちはよく分かります。
・水俣病で苦しんだ人の気持ちになってみました。とてもいやな気持ちになりました。そういう人がいっぱいいるんだろうなと思いました。だから，体が動かない人がいたら助けてあげたいです。
・大丈夫ですか。とてもつらかったですよね。よくここまでたえましたね。すごいです。私のしょうらいの夢はお医者さんです。あともう少しだけ待っていてください。あなたには仲間がたくさんいますよ。

【かげ口を言っていた人たちへ】



・かげ口や悪口を言わないでください。自分が言われたらどうか考えてください。水俣病になった人たちを助けたいと思ってください。
・かげ口は差別といっしょです。水俣病になった人を苦しめるのでかげ口はやめてください。
・どうして認められなかった人達を差別で苦しめたんですか。ぼくは差別をする人はきらいです。
・かげ口を言っていたら，Ｂさんが水俣病だとしても信じてもらえないよ。もうそんなことを言わないでください。
・自分もその立場だったらと考えてみればよかったのに。ちゃんと改心してください。
・水俣病と認められなかった人たちにかげ口を言うと心の傷がどんどん深くなってしまうから，もう影口を言わないでください。
・なぜかげ口を言ったのですか。私だったら生活を手伝ったり，勇気づけたりします。あなたもよりそってあげてください。もし，あなたが重い病気だったら，その人たちが手伝ってくれるかもしれません。
・そんなことを言わないでください。気持ちを考えてください。ちゃんと，やさしく「大丈夫？」と声をかけてください。その人の心が痛まないようにお願いします。
・水俣病にかかった人が悪いのではないですよ。水銀を流した工場が悪いんです。

【旗野秀人さんへ】

・お地蔵さんを作って仲の悪くなった村を前のいい村に変えようと考えるなんてすごいと思いました。
・お地蔵さんを作ってくれたから，村の人たちの心が同じ気持ちになったのではないでしょうか。お地蔵さんのおかげで差別する人が少なくなったのかなと思いました。
・旗野さんがお地蔵さんを作ってくれなければ，みんなはまだかげ口を言っていたかもしれません。阿賀のお地蔵さんを作ってくださってありがとうございます。
・村のきずなを取り戻すためにお地蔵さんを置くなんてすごい考えですね。熊本の方を向いているのもとてもいいことです。
・旗野さんの，ばらばらになってしまった村の人たちの心を元にもどしたいという考えを聞いて，とても感動しました。阿賀のお地蔵さんのお供え物はたえることはないと書いてありましたが，それは村の人たちがまたなかよくお供えをしているからだと思います。

地域の特色を活かした
環境学習支援事業

令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立太夫浜小学校	担当（職・氏名）	教諭　　高橋　淳
学習テーマ	豊かな自然　太夫浜～ウミガメ復活プロジェクト～		
活動のねらい	太夫浜海岸のごみの量や種類等を調査することを通して，身近な自然環境の問題に気付き，自分たちでできる環境を守る取組を考えたり，実践したりしようとする意欲や態度を養う。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・太夫浜海岸のごみの大部分は，身近な川から流れて生きていることを知り，川と人々との生活を調べるとともに，身近な阿賀野川で起こった「新潟水俣病」の事実を知る。

・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部の方から話を聞き，新潟水俣病について学習を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①ゲストティーチャーの講話や太夫浜海岸での調査活動を通して，問題意識をもつ。＜４年＞

・マリンピア日本海の方のお話　・太夫浜海岸でのごみ調べや水質調査

②ウミガメ復活プロジェクトを企画し，実践する。＜４年＞

・プロジェクトの企画，プレゼン　・実践活動

③身近な環境問題に目を向ける。＜４年＞

・問題意識の醸成　・調べ活動

④身近な環境を守る取組を考え，実践する。＜４年＞

・草木染め体験　・紙すき体験　など

⑤これまでの実践を振り返り，まとめ，発信する。＜４年＞

・発表会　など

⑥新潟水俣病の学習をし，水と環境の関係についての理解を深める。＜５年＞

・「環境と人間のふれあい館」の訪問

○　活動詳細

実施期間	５月～２月＜４年＞，１２月＜５年＞

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
ゲストティーチャーによる講話と，太夫浜海岸調査	５	・ゲストティーチャーによる講話を聞き，ウミガメの生態を知る。 ・海岸でのごみや水質調査活動で，海岸の様子を把握する。
ウミガメ復活プロジェクトの企画と実践	１２	・プロジェクトの企画を考え，実践の準備をする。 ・海岸清掃，砂浜平ら作戦，ポスター呼びかけなどの実践をする。
身近な環境は？	８	・海岸のごみについて講話を聞く。 ・身近な環境問題に目を向ける。
身近な環境を守る	１２	・身近な環境を守る取組を考え，実践する。

振り返り，発信	４	・これまでの取組を振り返り，発信する。
水と環境の関係 （５学年： 新潟水俣病の学習）	４	・「環境と人間のふれあい館」の見学をする。 ・「未来へ語りついで」等を活用して，新潟水俣病についての理解を深める。

○　協力団体・協力者等

・新潟市水族館マリンピア日本海　　・南浜漁協　　・太夫浜婦人部

・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題

【成果】

・毎年，全校で行っていた「海岸清掃」がコロナ禍の影響でできなくなった。そのため，４年生の総合的な学習の時間の環境問題として行った。単元の導入で，水族館の方に「以前太夫浜海岸にウミガメがきたこと」「ウミガメの生体」の話を聞くことで，「ウミガメを自分たちの力で呼ぼう」という意識を高め，追求活動を行うことができた。（４年）

・ウミガメを呼ぶために，これまでの海岸清掃だけでなく，タイヤの跡をなくして砂浜を平らにすることや，海岸をきれいに使って欲しいことを呼びかけるポスターの制作など，例年にない新しい取組を行うことができた。（４年）

・水族館の方の話を再度，聞くことで，「ウミガメを呼ぶ活動」から「身近な環境問題」に目を向けることができた。（４年）

・新潟水俣病の発生原因について，工場排水→魚→人間へとつながっていることを知ることで，人間の活動が災いとなって人間に戻ってきたという人間の生活と環境の密接な関わりを考えるきっかけとなった。（５年）

・新潟水俣病の語り部さんから直接，話を聞き，患者さんの苦しみについて具体的に知ることができた。また，差別や偏見に苦しんだ生の声を聞くことで，差別や偏見を絶対に許してはいけないという強い気持ちをもつこともできた。（５年）

・新潟水俣病が今も続いているのだということを語り部さんの話や関連資料から知ることで，自分たちにできることを考えることができた。（５年）

【課題】

・今年度は発信する場を学校内にとどめた。その他に，学校内にいても広く発信できる方法と機会を講じる必要があると感じた。（４年）

・太夫浜海岸での環境教育から，阿賀野川での環境教育（新潟水俣病）への子どもの意識をつなげることが難しかった。（５年）

4学年　ウミガメ復活プロジェクト 2020

ゲストティーチャーの講話	太夫浜海岸での事前調査
	
プロジェクトの事前準備	太夫浜海岸での実践活動①
	
太夫浜海岸での実践活動②	太夫浜海岸での実践活動③
	

5学年　水俣病について考える

語り部さんへのお礼と感想発表	新潟水俣病の発生原因
	
阿賀野川流域の様子①	阿賀野川流域の様子②
	
阿賀野川流域の人々のくらし	阿賀野川に生息する魚
	

令２０２０年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立太夫浜小学校	５年（32 人）	11 月 19 日	道徳	教諭・荒澤　寛美

【主題名】　新潟水俣病について考える。

【ねらい】 新潟水俣病の公害認定に向けて懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して，差別や偏見を許さない態度を育てる。

時	教師の働きかけ	子どもの反応（学習活動時）	資料
５分	○水俣病は，どんな公害でしたか。	●阿賀野川の近くで起きた公害 ●川に有害なものを流してしまって，それを魚が食べ，その魚を食べた人が病気になった。	現在の阿賀野川の写真を見せる。 死骸の写真を見せる。
５分	○公害の被害にあった人々は，どんなことに苦しんだのですか？	●手足がしびれた。耳が聞こえにくい。 ●味やにおいが分からない。 ●めまい。 ●ひどいときは，意識不明や死亡することも。	
５分	○実際に公害の被害を受けた人の話を読みましょう。		生きるⅢ（ｐ２７～３０）を読む。
	○資料を読んで，患者さんは，体の症状の他にどんなことに苦しんでいましたか。	●家事ができなくなった。 ●仕事で悪口を言われた。 ●夫婦でけんかをし，離婚まで考えた。 ●自分だけ認定されなかった。 ●夫は検査を諦めた。	
２０分	○公害がなくなって，水俣病は，解決したのでしょうか。	●していない。裁判がまだ続いている。	
	課題　私たちにできることは，どんなことでしょうか。		
	○友達と相談しながら考え，発表しましょう。	●団体を作って，みんなに呼びかけていけばよいと思う。 ●募金をするとよいのでは。 ●差別をしないことが大切。 ●裁判で訴えたらよいのでは。 ●正しい知識をみんながきちんともつことが大切。	

１０分	○一人一人が今からできて，今後も続けていくことができることはどんなことでしょうか？ まとめ　正しい知識をもち，差別や偏見をなくすこと。 ○学習の振り返りを書きましょう。	みんなが知識をもち，差別をしないことだ。	

【授業後の子どもたちの考え】

○新潟水俣病になった人たちの悪口を言ったり，差別をしたりしている人たちは，ひどいと思った。正しい知識をきちんともって，差別のない社会にしていくことが大切だと思う。

○患者さんが，苦痛を訴えているのに，まちがった診断を出すのはよくないと思った。自分が医者になって，正しい診察をしてあげたいと思った。つらく，苦しい思いをしている人たちを助けてあげたいと思った。

○公害がなくなったので，新潟水俣病の問題は解決したと思っていた。まさかまだ裁判が続いているとは考えてもみなかった。裁判がとても長く続くということも初めて知った。新潟水俣病の患者さんはつらく大変な思いをずっと引きずっていることが分かり，かわいそうだと感じた。



■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立牡丹山小学校	担当（職・氏名）	教諭・佐藤　公則
学習テーマ	新潟水俣病の原因、患者の苦しみ、解決に向けた取組について知ろう		
活動のねらい	水俣病の原因と当時の社会的状況、人々の考えや行動、悲惨な病状と今も続く後遺症、裁判での解決に向けた努力等を知らせるとともに、患者への対応や教訓を生かした公害を防ぐための取組について、各種資料をもとに調べ、公害から人々の健康や生活習慣を守ることの大切さをとらえる。そして、四大公害病をはじめとする様々な公害を乗り越えてきたおかげで、今の生活があることに気づかせ、より良い環境を作り出していこうとする意欲や態度を育てていきたい。		

○　新潟水俣病とのかかわり

新潟水俣病問題の歴史と教訓を学ぶことで、新潟水俣病の被害者が抱えてきた痛みに共感し、このような悲惨な公害が二度と繰り返されることなく誰もが安心して暮らすことのできる地域社会を目指そうとする心情と態度を育む。

○　活動概要

水俣病は、高度経済成長を支えた産業発展と同時に、熊本県水俣市及び周辺で起こった日本の公害の原点とも言われる公害病である。健康被害、苦しい患者の生活、差別、自然環境の破壊、環境改善に向けた取組など多様な要素を含んでおり、５年社会または道徳において、多くのことを学ぶことができる。患者は今も苦しんでおり、認定の問題も引き続いている。同時に、この被害を経験したからこそできる環境保全の取組を積極的に行い全国に発信している。新潟水俣病の経験と教訓を後世に伝えるとともに、環境を大切にする意識を育み、公害の根絶と環境保全の重要性を認識し学んでいく。

○　活動詳細

水俣病患者の被害の様子、原因である工場が行ってきたこと、工場が地域にとってどんな存在であったか、地域に住む人々の生活にはどんな影響があったかについて教材化しようと考えた。水俣病が提起する問題について考えるには、原因や被害についてだけでなく、そこに生きる人々がどんな生活をしていたのか、何を考えどう行動したのか、現在は何を目指しているのかについて知ることが必要である。このことが理解されて初めて、児童は公害から生活環境を守るために自分はどう行動すべきかを、自分自身や自分の生活とのかかわりでとらえられるようになると考える。

実施期間	１月　～　２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
阿賀野川流域が四大公害病の一つである新潟水俣病の発生地域であることを知る。	1	○写真資料から、水俣病がどんな病気か、なぜ起きたかをつかむ。 ○公害と環境を関連させた学習課題を設定する。
「水俣病」のＤＶＤを視聴し、学習課題をとらえる。	1	○ＶＴＲを視聴し、資料をもとに原因と工場の態度について話し合い、患者の苦しみや願いを考える。

日本の工業発展期に引き起こされた公害病であることを理解する。	1	○資料から全国でたくさんの公害があることを知り、工業の発展と関連があることをとらえる。（地図、文書、統計資料）
語り部の資料映像を視聴し、水俣病患者の身体的、精神的な苦しみを知るとともに、病気の教訓を生かした取組が行われていることを理解する。	1	○被害者の生活の変化や苦しみについて考える。 ・健康を失い、そのために変わってしまった生活の様子や様々な差別を受けて苦しんだことを語り部のビデオや資料から知る。 ・被害者は「昭和電工」「国」「病気」「差別」とたたかってきたことを理解する。
自分が取り組める環境保全を考える。	1	○公害を防ぎ、環境を守るために自分たちは何ができるかを考える。

○　協力団体・協力者等
・新潟県立環境と人間のふれあい館

○ 成果と課題

【成果】

・水俣病から学ぶべきこととして、パンフレット等を参考にし、次の５つに整理した。
① 人の命、健康、環境を何よりも大切に考える
② 公害は起こる前に防がなければならない
③ 被害を最小限にとどめる最大限の努力が必要
④ 正しい知識をもち差別やいじめ、偏見をなくす
⑤ 一人一人が環境を守る努力をする

授業の最後に自然災害と公害との違いを子どもたちに問いかけた。すると、「公害は人間が起こした災害」「自然災害は防げないけど、公害は防げる」という答えが返ってきた。責任は人間にあることを確認した。このことにより、公害や環境問題についてより自分事としてとらえることができた。

・日本四大公害病の一つである「新潟水俣病」がとても近い場所で起こったということで、公害問題をより身近な問題としてとらえ考えることができた。自分たちが身近に感じている阿賀野川が汚染され、また川沿いにすむ人々が被害にあったという事実を知ることで、公害に対する関心を高めることができた。

・社会での学習を中心に取り組むとともに、理科や道徳の時間も活用した。そのため、様々な面から環境問題を取り上げることができた。社会的な問題であることを真剣に受け止め、自分たちでできることや、これからどうしていかなければならないかを前向きにとらえることができた。また、問題解決のために活動をしてくれている人たちへの感謝や尊敬の気持ちをもつことができた。

【成果】

・水俣病について学んだことを踏まえた上で、環境を守るために自分たちができること等について発信する場を設けることで、学びの深まりが期待される。

【写真資料】

新潟水俣病の原因、患者の苦しみ、解決に向けた取組について知ろう

新潟県立環境と人間のふれあい館からＤＶＤをお借りして、新潟水俣病の語り部の方から、お話をお聞きしました。新潟水俣病の症状や関わった人々の思いや願いについて、多くのことを学びました。



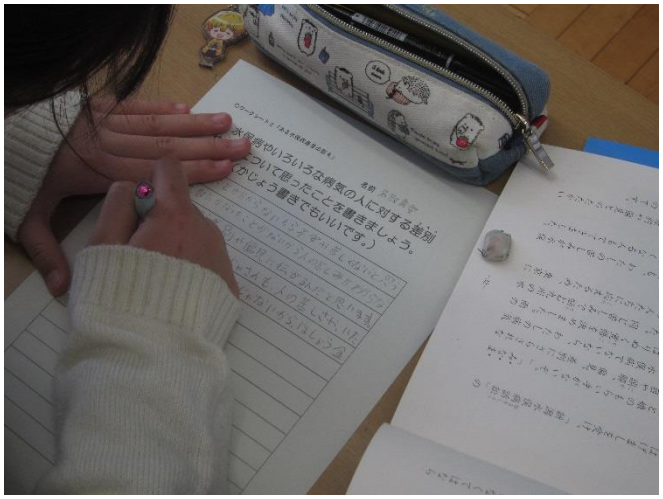


道徳の授業を通して、自分たちでできることや、これからどうしていかなければならないかを前向きにとらえることができました。









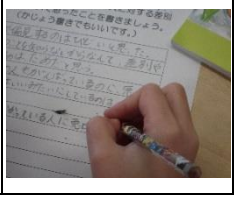
■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立牡丹山小学校	**5年4組（27人）**	**1月29日**	**道徳**	**教諭・佐藤　公則**

・主題名　「差別と偏見の中で（「生きるⅢ」より抜粋）

・ねらい　新潟水俣病の原因や歴史、患者の方々とその家族の苦しみを知る活動を通し、差別や偏見で人や物事を見てはいけないという態度を育てる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	新潟水俣病の原因や歴史について、今まで学習してきた内容を把握する。	・新潟市の阿賀野川で起きた公害 ・メチル水銀という有毒なものを工場から流した。 ・食物連鎖、食物濃縮によって汚染された魚を、阿賀野川周辺の人々が食べ続けたことで起きた。 ・新潟水俣病になった人は、元には戻らない体になってしまい、一生苦しんだ。	【資料】 未来へ語りついで ～新潟水俣病が教えてくれたもの～
	二度と新潟水俣病のようなことにならないように私たちはどのようなことを考えていかなければならないか。		
5 10	語句の意味を補足しながら、ゆっくりとていねいに範読する。	・教師の範読をよく聞きながら、文章を読む。	【資料】 生きるⅢ 「5　ある新潟水俣病患者の訴え」
	新潟水俣病にかかった人たちやその家族の方々は、周りの人からどんなことをいわれたり、されたりしましたか？		
        10	主発問につながる補助発問として、新潟水俣病の人々と家族が「差別」「偏見」を受けてきたことを読み取り、本文に線を引いて押さえさせる。	・「認定を受けて金がほしいんだろう」と言われた。 ・「病気の治療もしないで」と陰口を言われたり、冷たい態度で見られたりした。 ・「補償金が目当てだろう」とか、一円ももらっていないのに「何万円ももらってまだもらいたいのか」などと言われた。 ・「そんなことをしていると娘のもらい手がないぞ」 ・「みなまたならだまっていたほうがいいぞ」と言われた。 ●周囲からの冷たい視線や誤解、偏見、差別にさらされた。ひどい苦しみを受けた。	
	新潟水俣病にかかった人たちやその家族がこんなにも苦しい思いをしているのに、どうしてこのような誤解や偏見、差別をし、冷たい言動をとったのでしょうか。		

15	グループで話し合い、理由をいくつか考えさせる。 全体で話し合い、考えを共有する。	・病気のことがよくわからず、不安だから。 ・病気のことがよくわからず、本当は病気じゃないのに、うそついていると思ったり、苦しくないと思ったりしたから ・自分が水俣病になりたくないから。 ・自分が差別されるといやだから。 ・本当に怖かったから。 ・患者さんのせいで迷惑している人がいるかもしれないから。	
	正しい知識をもち、普段から偏見や差別、いじめをしないことが大切である。		
	水俣病やいろいろな病気の人に対する差別や偏見について思ったことを書きましょう。		
	振り返る。	・その人が本当に苦しんでいるのに、判断されたらとてもかわいそうなことだと思いました。噂を信じないようにしたいです。 ・人の噂に流されず、よく調べたり確かめたりしていきたいと思いました。	・P74のワークシート2 

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・差別は世の中に絶対にあってはいけないものだと思いました。患者さんは何も悪くないのに、「怠け者」とか「税金泥棒」とかを勝手に言うのは本当にひどいと思います。患者さんは水俣病に負けずに頑張っているのにこのようなことを言われたら本当に悲しむと思います。もし、私が患者さんだったら体に加え心も傷つき、誰にも会いたくないので、ずっと一人でいると思います。二度とこのようなことが起きないように、人の気持ちを考えながら過ごしていきたいと思います。

・差別や偏見はどんな病気でも決してしてはいけないことだと思います。差別や偏見を言う人は、病気にかかっていないから平気でそんなことを言えるけど、その病気にかかった人はとてもつらいと思います。もし、「自分が病気になってしまったら」ということを考えていれば、このようなことが起こらないと思います。今、コロナウィルスと同じだと思ったので、コロナでも起こらないといいです。

・水俣病になってしまった人が認定を受けてもらえず苦しんだことがわかりました。周りの人たちは自分も水俣病になってしまったらどうしようと怖い気持ちがあるから差別をしてしまうと思いました。だけど、差別をしてしまう理由があるからって、他人を傷つけてはいけないと思います。水俣病になり、差別をされた気持ちをわかってほしいです。私も苦しい思いをした人たちの気持ちになって差別をしないようにしたいです。今も新型ウィルスにより、患者さんが苦しんでいると思います。だからその人たちをもう苦しめないようにしたいです。

令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立上山小学校	担当(職・氏名)	教諭・中島　豪
学習テーマ	地域の自然環境と私たちのくらし		
活動のねらい	・身近な自然環境や鳥屋野潟，福島潟の環境について調べる活動を通して，生活と環境とのつながりについて，環境を守っていくことの大切さや環境と生活との関わりについて考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

身近な鳥屋野潟の自然環境と類似した福島潟の自然環境に目を向け，水を中心とした環境汚染や環境保全について学んでいく。水環境を学習する中で新潟水俣病に触れ，高度経済成長により汚染が進んだことや，解決に向けた取り組み，流域に暮らす人々の思いを理解していく。また，「環境と人間のふれあい館」を訪ね，語り部の方の話や資料をもとに理解を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①自分たちの地域の自然環境について現状を調べる。
②地域にある湖沼，鳥屋野潟について「とやのものがたり 2020」事業を利用して，講師の方にお話を聞く。
③インターネットや図書室の資料を活用して環境汚染や環境保全，新潟水俣病について調べる。
④新潟水俣病に関するリーフレット資料や DVD 資料を「環境と人間のふれあい館」訪問の事前学習として視聴する。
⑤「環境と人間のふれあい館」に行き，語り部さんから話を聞いたり，館内の展示資料を見学したりする。
⑥調べたことをもとに，自然環境や水環境，新潟水俣病についてまとめ，発表し合う。

○　活動詳細

実施期間	９月～　　２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
上山の自然についての調べ学習	５	上山地域の自然環境について，テーマを決めて書籍やインターネットを使って調べた。
自然環境を守るための取り組みについて，調べる	６～８	自然環境を守るために大切なことを考えるために，水や空気，ゴミ，生物などの視点から自分でテーマを決めて調べた。
鳥屋野潟について漁協の方のお話を聴く	２	上山地域の自然について調べる中で，身近な鳥屋野潟について関心を広げ，「とやのものがたり 2020」事業を利用した。鳥屋野漁協の方に来ていただき，鳥屋野潟の概要や歴史，昔から現在までの漁業の変遷，生息する動植物，外来種による生態系の影響などについて話を聴いたり，資料を見たりして学習した。
新潟水俣病についての事前学習	１	新潟水俣病に関するリーフレット資料や DVD 資料を「環境と人間のふれあい館」訪問の事前学習として視聴し，水質汚染によって大切な自然ばかりでなく，人の生活もおびやかされた身近な事実であることを知った。

福島潟見学	２	豊かな自然が残り，多くの野生動植物が生息する福島潟について，ビュー福島潟に行き，レンジャーの方より話を聴いたり，展示資料を見たりして，自然が大切に守られていることを学んだ。
環境と人間のふれあい館見学	２	館内の展示を見ながら，係の方の説明を聴いたり，語り部さんの話す DVD を視聴したりして，新潟水俣病の原因が水質汚染であることや，今でも被害に苦しむ方の思いに触れた。
自分が調べてきたことのまとめ	６～８	上山地域の環境を守るにはどんな取り組みがあるかを考え，これまで学習してきたことや調べてきたことをもとに，模造紙にまとめた。
発表と振り返り	３～４	地域の自然環境の現状とそれを守るために大切なことや自分ができること，また，新潟水俣病についてを振り返ったことをまとめて発表した。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・鳥屋野漁業協同組合　大野様　渡辺様
・ビュー福島潟
・環境と人間のふれあい館
・新潟水俣病語り部　立川様
・中央区窓口サービス課　西脇様

○　成果と課題

【成果】

・上山地域の環境学習から視点を広げて，水環境や同じ新潟市にある福島潟そして新潟水俣病について，施設見学や語り部さんの講話から体験的に学習することで，自然環境と私たちの生活のつながりを実感しながら，理解を深めることができた。
・新潟市の事業である「とやのものがたり 2020」を利用し，身近であると思っていた鳥屋野潟について興味深い話や資料などから，知らないことがたくさんあることに気づくことで，新たに福島潟や新潟水俣病にまで考えを巡らせる足がかりとなった。
・生活が多様化したり，社会が変化したりしていく中で，大切に守っていくべき自然環境について考え，調べ学習を通して，自分たちができる取組について考えることができた。
・新潟水俣病の学習から環境問題や人権問題について，また，それらを解決しようとする人々の努力や国，県，市の対応に意識を向け，深く考えることができた。

【課題】

・上山地域の環境学習から，福島潟や新潟水俣病の学習へ系統的に学習を展開することが，うまく行えず，児童の思考の流れに沿った学習になっていなかったところがある。
・新型コロナウィルス感染予防のため，語り部さんの話を直接聴くことができず，DVD の視聴になってしまった。生の語りを聴くことで，より新潟水俣病で苦しむ人々の思いや願いに寄り添うことができたかもしれない。
・社会科の工業や公害病，または道徳の差別や人権の内容と，直接的に関連させて学習することができなかった。総合的な学習に時間と他教科との関連づけを意識する必要があった。





上山地域の環境についての話し合い・情報共有





「とやのものがたり 2020 事業」による鳥屋野潟出前授業





ビュー福島潟見学



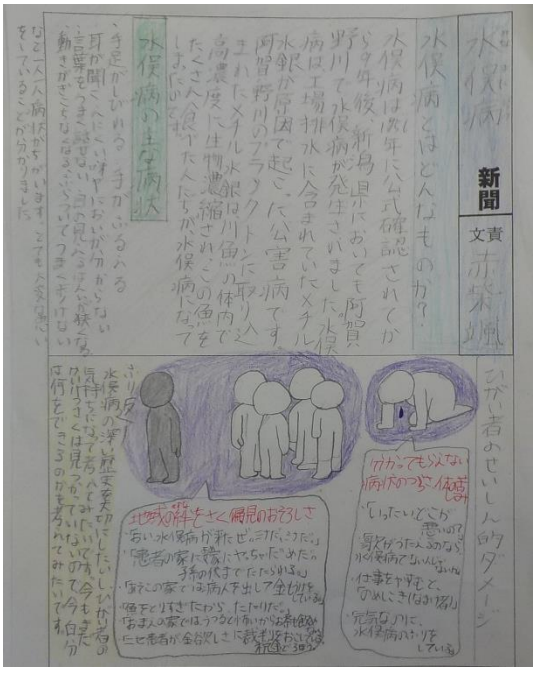


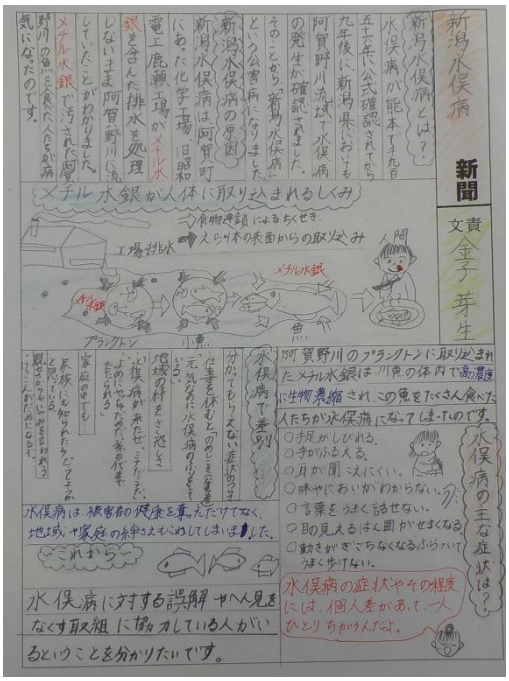


環境と人間のふれあい館見



語り部の立川さんの DVD 視聴
（感染予防のため DVD による講話で）





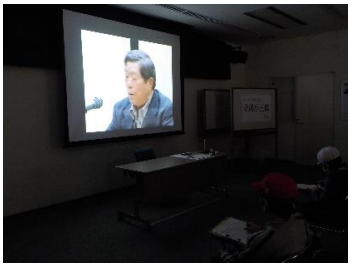
見学後の振り返りの新聞

令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立上山小学校	**5年4組**	**12月4日**	**総合的な学習**	**教諭・中島　豪**

・主題名　新潟水俣病から学んだこと

・ねらい　新潟水俣病について，語り部さんからその経緯や解決に向けた努力，苦しんだ思いを聴く活動を通して，これからの自分にできることを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	○水環境と新潟水俣病について学習してきました。 ○水俣病が起きた原因や被害についてどんなことがわかりましたか。 	・新潟水俣病の説明の DVD を見た。 ・「環境と人間のふれあい館」で語り部さんの DVD もを見た。 ・工場の排水で，阿賀野川の周りにくらしていた人が，捕れた魚を食べるなどして，病気になってしまった。 ・今でも手足のしびれや頭痛に悩まされている人がいる。 ・病気による被害だけで苦しんでいるのではないようだ。	「新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの」DVD
15	○新潟水俣病の被害を受けた人たちの本当の苦しみとは何か考えましょう。 ○資料1を読みましょう。 「命の川　阿賀野川」 ・水俣病の症状などの病理的な視点から，被害者の苦しみに寄り添っていく。 ○とても大変な病気だということが，改めてわかりましたね。でも，病気の症状に苦しんでいただけではなく，もっとつらい思いをしたことを次の資料2を読んで確かめましょう。 「もうひとつの水俣病」 ・社会的差別や偏見などの視点から，被害者の気持ちや苦しみ，苦悩に寄り添っていく。 ○どんなことを感じましたか。	・DVD や環境と人間のふれあい館で学んだことが具体的に書いてある。 ・「命の川」の意味がわかった。 ・生活に欠かせない川なのに，病気の原因になるなんて。 ・そこにくらしていた人は何も悪くはないのに，水俣病になってしまってかわいそう。 ・どんなことがあったのかな。 ・病気で仕事を休んだのに，怠け者扱いされるなんて，ひどい。 ・病院でも，お金ほしさで来ていると疑われてかわいそう。 ・うつる病気ではないという正しい理解がされず，避けられてしまうのはつらいと思う。 ・裁判を起こしても，ニセ患者扱いされて横目で見られるなんて，ゆるせない。 ・差別によって家族や地域，友達の絆が壊れてしまうのが，かわいそう。 ・本当の症状に苦しんでいるのに，心まで苦しい思いをしていると思う。	「水俣病の教訓を後世に伝えるために」 P.46 P.48

15	学習課題 新潟水俣病になった人たちの本当の苦しみを知って，環境を守るために私たちにできることはどんなことだろうか。 ○新潟水俣病になった人たちの本当の苦しみを知って，環境を守るために私たちにできることを考えましょう。 ・グループによる話し合い活動で，ホワイトボードに書かせる。 ・各グループで考えた意見を発表させ，共有化する。	・川や海にゴミを捨てないようにしよう。 ・リサイクルできるものは，リサイクルしてエコ活動をしていこう。 ・環境と人間のふれあい館で油をきれいにするには大量の水が必要なことを展示で知ったから，油を流さないように気をつけよう。 ・水俣病の人たちのことをたくさんの人に正しく伝えることも大切だよ。 ・水俣病の人たちへの差別をしないことは当たり前で，差別をしないように呼びかけることがこれからは大切だと思う。 	「水俣病が教えてくれたもの」
10	○学習課題についてのまとめをしましょう。 まとめ エコ活動やゴミのポイ捨てをしないことなどの水環境を守るための取組だけでなく，新潟水俣病について正しく伝え，差別や偏見をなくしていくことが，私たちにできるこ ○今日の学習の振り返りをしましょう。 ・ワークシートに振り返りを書かせる。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・水俣病の人たちはつらい思いをして生きているのに，周りの人からいやみなどを言われ，「心」まで悲しくなってしまうのは，かわいそうだと思いました。私はそんな人にやさしく手助けしてあげたいと思いました。

・水俣病は阿賀野川上流の工場がちゃんと水銀を処理していれば，起きなかったのにと思いました。川をよごすのはよくないと思いました。

・水俣病について学び，原因について知り，その水俣病がとてもおそろしいことが分かりました。また，水俣病で差別を受けている人もいることを知りました。病気のことを分かってもらえず苦しんでいる人もいることも分かりました。自分は環境の問題を解決していきたいと思いました。

・水俣病に対する誤解や偏見をなくす取組に協力している人がいるということをみんなに伝えたいです。

■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立両川小学校	担当(職・氏名)	教諭・徳永　卓
学習テーマ	「守ろう！両川の川」4 年生社会科「水はどこから」「ごみはどこへ」 総合的な学習の時間「環境を通した地域学習」		
活動のねらい	○身近な水環境を調べる学習を通して自然環境と人の営みとのかかわりについて理解を深め、環境を保全していこうとする態度を育む。 ○両川に流れる信濃川と小阿賀野川を、過去に新潟水俣病が発生した阿賀野川流域と比較しながら総合的に学習する。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・活動概要①：「環境と人間のふれあい館」を訪問し正しい知識をもとに、学習をスタートさせる。また、様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。

・活動概要⑤：新潟水俣病の語り部の方から直接体験を聞き、偏見や差別の現実を知る。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①「環境と人間のふれあい館」での新潟水俣病や水環境の大切さについての学習を通して、単元の学習課題を設定する。(7 月)

②社会科「水はどこから」「ごみはどこへ」で水をきれいにする仕事・生活環境を守る仕事についてリモート見学をしたり、調べ学習を通して理解を深める。(7 月～9 月)

③小阿賀野川の水質を調査したり、各種の環境問題の資料を調べたりすることを通して、水を汚さないためにはどうしたらいいかを考え水新聞にまとめた。(9 月～11 月)

④サントリーの水育(みずいく)出前授業を受講し、水は循環していることや自分たちの生活が水環境に大きな影響を与えること、水を育む森林の大切さなど別の角度から学習する(1 月)

⑤私たちの未来のために、環境の視点から「今やるべきこと」を整理し、発信する。(1 月～2 月)

○　活動詳細

実施期間	７月～　　２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
総合的な学習の時間 「守ろう！両川の川」	25 時間	・環境と人間のふれあい館を見学する。(水の汚れ度実験・新潟水俣病について語り部さんより話を聞く・水環境についての学習) ・両川の地域を流れる小阿賀野川・信濃川についてイメージマップを作成する。 ・身近な川の今と昔の違いをインタビューし調べる場を設定する。 ・課題を設定し、調べ・まとめ・発信する活動を組む。
社会科 「水はどこから」 「ごみはどこへ」	8 時間 10 時間	・社会科の学習で環境と人々の生活について考えさせる。 ・水やごみなどの生活環境について学んだことを環境新聞にまとめさせる。 ・きれいな水を守っていくために自分たちに何ができるかを考えさせる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館　及び　語り部　小町　ゆみ子　様

・サントリー出前授業「水育」事務局　様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・実体験を通すことで、子どもたちは自分たちの地域を流れる２つの川・小阿賀野川や信濃川への思いを高めることができた。

・社会科での学びと合わせて考えることで、様々な角度から環境問題について考えをもつことができた。

・新潟水俣病の語り部さんから直接お話をお聞きすることができ、患者さんの苦しみについて具体的に知ることができた。

【課題】

・活動は充実していたが、配当時数だけでは足りなかった。

・充実した体験活動により知識は身につき、自分たちにできることを考えることはできた。しかし、その実践まではいかなかった。ここで学習を終わりにせず、自分たちができることを継続的に考え、実践していくことが必要である。

写真資料１

環境と人間のふれあい館で、新潟水俣病の語り部の方から、お話をお聞きしました。新潟水俣病の症状や、思いや願いについて、多くのことをお聞きしました。資料館でも、水環境のことについて学習し、理解を深めることができました。

小町ゆみこさんのお話





館内での見学









水質調査













■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立両川小学校	**４学年（18 名）**	**９月18日**	**道徳**	**教諭・徳永　卓**

・主題名「みんながなかよくくらしていくために」（B-7 親切・思いやり）

・ねらい

地域が差別や偏見によって結びつきを失う様子や結びつきを取り戻すために行動する人々の姿を学習することを通して，相手の立場を想像し，相手のことを考えた行動の大切さに気付き，自ら誰かのために親切に行動を行おうとする心情を高める。

資料「お地蔵さんにこめられた願い」（新潟水俣病の教訓を後世につたえるために P29～40）

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	（資料の前段を読む）		本文配付
	T　当時の「阿賀野川のほとり」はどのような様子でしたか。	C：みんなが仲良く暮らしていた。 C：絆があった。	（スクリーンに映す。）
	（資料の中段を読む）		資料1
	T　強い絆で結ばれていた村は水俣病によってどうなってしまったのですか？	C：ばらばらになった。 C：差別が起きてしまった。 C：幸せではなくなった。	資料2
	T：どうすれば元の仲の良かった村に戻れるのかを考えてみましょう。		
	T：ロールプレイ１をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ１をする。）	ワークシート
	T：A さん役だった人はどんな気持ちになりましたか。	C：傷ついた C：責められてとてもいやな気持ちになった。	
	（資料後段を読む）	C：水俣病の人の気持ちを考えていない。	資料3
	T 旗野さんはどのような方法で村を元通りにしようとしたのでしょうか？	C：お地蔵さんをつくった。 C：お地蔵さんに村がもとに戻るようにと願いをこめた。	
	（旗野さんの言葉を読む）		
	T：ワークシートに相手を思いやる言葉を書き加え，またロールプレイをしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ２をする）	
	T：A さん役の人はどんな気持ちでしたか？	C：味方が増えたようでうれしい気持ちだ。 C：患者の方は悪くない。助けてあげたい。	
	T：自分の思いや考えを伝えたい	C：差別や謂れのない偏見は許せない。	

	相手を「ニセ患者と言われ,陰口を言われていた人たち」「陰口を言っていた人たち」「旗野秀人さん」の 3 人から選んで手紙を書きましょう	**C:旗野さんの行動のおかげで絆が戻ったのだと思う。うれしい。**	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

【ニセ患者と言われ,陰口を言われていた人たち】

・水俣病になって今まで仲良くしていた人たちにまで陰口を言われ,とても悲しい気持ちだったんだろうなと思いました。

・最近のニュースでもコロナ差別や,テニスの大阪なおみ選手が言っている黒人差別などの話があり聞く度に悲しくなります。70 年前に新潟で起きていたことは今でもこの世界中で起きています。みなさんが苦しんだことを,忘れずに僕も考えていきたいです。

・「ニセ患者」なんていうひどい陰口を言われたら自分だったら苦しくてどうしたらいいかわかりません。旗野さんが作ってくれたやさしい顔のお地蔵さんを見て,心の傷が少しでも軽くなることを祈っています。

・陰口を言われて,とても苦しかっただろうと思います。私も,友達に悪口を言われていたと聞いたときはとても苦しくて涙がでました。きっとその何倍以上も苦しかったし,悔しかったんじゃないかと思います。

【陰口を言っていた人たち】

・あなたは何の罪もない人に心の傷を負わせました。もう差別や偏見などをしないようにしてください。

・差別などでばらばらになった村の人たちが元に戻るように旗野さんが,阿賀野川近くの千唐仁にお地蔵さんを建てました。見に来てください。陰口を言ってしまった過去は変えられなくても,これからの自分は変えていけるはずです。私の好きな漫画に出てきたセリフです。

【旗野秀人さん】

・差別をなくそうとしている姿がかっこよかったです。ぼくもその姿を見習いたいです。

・旗野さんが水俣病で苦しんでいる人のために努力していることとてもすごいと思います。水俣病で苦しんでいる人たちも旗野さんがいるおかげで助かっているはずです。お地蔵さんを作ってくれて本当にありがとうございました。私もいつか見に行ってみたいです。

・旗野さんみたいに勇気のある人になりたいです。旗野さんが水俣病患者さんのために起こした行動ができる人になりたいなと思います。本当にありがとうございました。

令和２年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立早通小学校	**担当(職・氏名)**	教諭・斎藤　隆
学習テーマ	ビオトープ等を通して生物にとって棲みよい住みよい環境を考えよう （４学年：総合的な学習の時間）		
活動のねらい	自然環境と生物との関わりについて，ビオトープの世話をしたり，他の自然環境を調べたりする活動を通して理解を深め，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水俣病についての資料と，「未来へ語りついで」を学ぶ。さらに，「環境と人間のふれあい館」において，正しい知識を基に学習を深める。

○　活動概要

①　メダカやドジョウにとってビオトープをどのようにしたら棲みよくなるか考える。
②　ビオトープを観察することで，自分の課題を見付ける。…水の大切さ，在来種の大切さに気付く。
③　見付けた課題について，調べ方を考えたり，継続して観察したりしてまとめていく。　…生物にとって良い環境と良くない環境を比べる（水俣病と関連付ける）。
④　ビオトープの環境をプログラミングすることで維持する方法を考える。
⑤　自分の追求したことをまとめる。

○　活動詳細

実施期間	**令和２年４月～令和３年３月**

主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
ビオトープ	5	・生物にとってよりよい環境にするために，飛んでくる葉やゴミを上手に取り除く方法を考えさせる。 ・ビオトープに棲む生物を調べる。 ・学校の子どもたちにとってより良いビオトープにするための方法を考える。
ドジョウプロジェクト参加	5	・ドジョウを増やす取組，亀田の用水路に棲む水生生物の調査をし，ビオトープと比べることで環境について考えさせる。
福島潟の環境について学ぶ	5	・福島潟の生物について話を聞いたり，見学をしたりして，ビオトープと比べることで環境について考えさせる。 ・「環境と人間のふれあい館」で水質調査をしたり水俣病についてビデオの視聴と展示の説明を聞いたりすることで，環境の大切さを学ぶ。
人権教育	2	・水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要か学ばせる。
プログラミング	2	・ビオトープの環境を維持するために，プログラミングでできることを考える。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人「ボランティア亀田」他

○　ビオトープ

４月には早小のビオトープを観察し，生物について調べた。そして，メダカとドジョウにとって棲みやすい環境は何かを考えた。

○　ドジョウプロジェクト

７月には，地域のドジョウプロジェクトに参加させていただいた。ドジョウプロジェクトは亀田で昔たくさん育てていた歴史があり，ドジョウを育てて普及することを目指していることを説明していただいた。又，飼育池からドジョウの天敵となる水生生物を捕獲することで，亀田地域の田んぼや用水路にはいろいろな種類の水生生物が生息していることを知ることができた。

○　福島潟の環境を学ぶ・水俣病について学ぶ

７月には福島潟に出掛けて，自然と環境について学んできた。又，「環境と人間のふれあい館」では，水俣病について学ぶことができた。自然環境を守り続けていくことが大切だということを考えるよい学習となった。

○　プログラミング

ビオトープの世話をしていると，夏休み中に水が少なくなったり，水が汚れたりすることがあった。そこで，ビオトープの環境を維持するために，どのようにプログラミングすると解決できるか考えた。ＡＩカメラで水の量を調べて，水が少なくなると自動的に水が増えるようにできることを実験で確かめた。

○　子どもたちの声

・学校のビオトープ

「メダカやドジョウ，アメンボを観察することができた。生物がいろいろいてよかった」

・ドジョウプロジェクト

「昔はトラック１７台分もドジョウを全国に送っていたのかと驚いた」

「ウナギとドジョウが同じくらいの栄養があるなんてすごい」

・福島潟の自然観察

「色々な木や鳥や昆虫，そして，魚がいてびっくりしました。オオヒシクイを冬になったら見てみたいと思った」

・プログラミング

「水にボールを浮かべて，浮かんだボールの色をＡＩカメラで認識して，その高さでポンプのスイッチを入れるかどうかを自動的に判断して水を入れていた。ＡＩプログラミングの可能性はすごいと思った」

・水俣病

「環境がこわれるととても大変だと思った。正しい知識を学び，環境を守りたい」

○　成果と課題

成果①　水俣病について正しい知識をもつこと，差別はいけないこと，自然環境を大事にしていかなければならないことの大切さについて学ぶことができた。

成果②　たくさんの生物を観察したり，学んだりした結果毎日のように魚の世話をする子どもの姿が見られた。

成果③　ビオトープの水が少なくなった時に，ＡＩカメラを使って自動で水を入れるにはどのようにプログラミングするといいか，考えて試すことができた。

課題環境を守ることの大切さと，差別をしてはいけないことは学んだが，身近なところから自分のできることをしていくという実践的な部分がまだ不足している。

○　写真資料

ビオトープの観察をし，よりよい水環境にするためにどのようにしたらいいか考えた。





ドジョウプロジェクトに参加





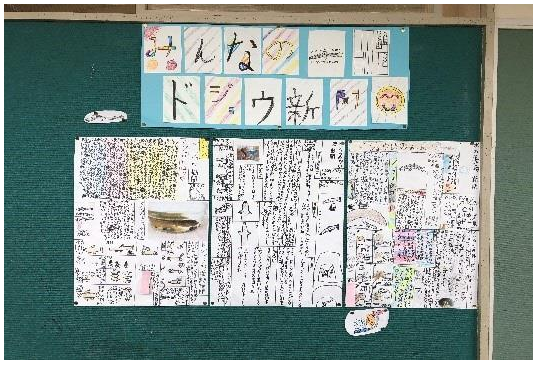
亀田郷にいる水生生物を捕り，飼育し，図鑑で調べる。





ドジョウ新聞作成

ドジョウについて調べたことを発表





ビュー福島潟で環境について学ぶ。



福島潟で生物について学ぶ。



福島潟，ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ，水道水の水質調査



水俣病の発生原因と食物連鎖



水の循環について学ぶ。



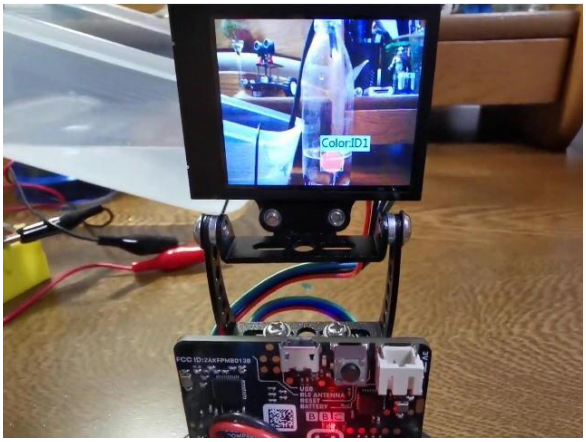
水の大切さについて学ぶ。



ＡＩプログラミングで水を管理する実験



水に浮かべたボールをカメラで認識

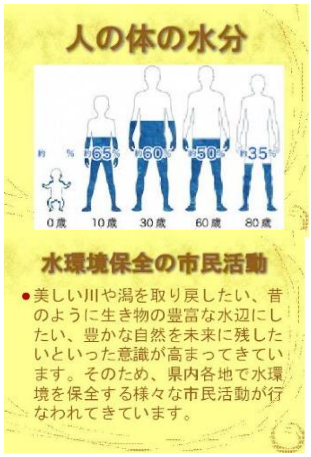
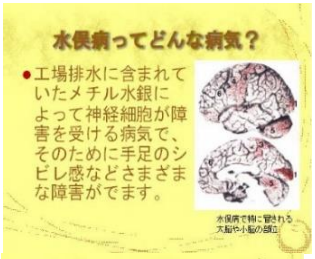
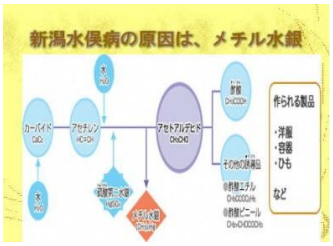
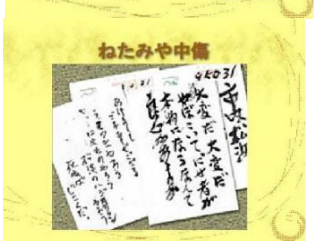
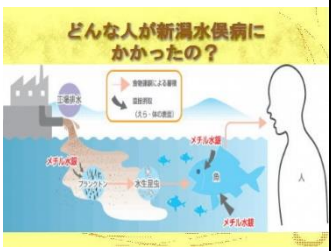


令和２年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立早通小学校	**４年１組(13 人)**	**7 月１．２日**	**道徳**	**教諭　斎藤　隆**

主題名　**環境学習から水俣病について学ぶ　３－（２）自然愛**

ねらい　**新潟水俣病が，自然を壊し，環境を蝕み，生活を変えたことを理解させ，人々が安心して暮らしていくために，自然を畏敬し，社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。**

配分（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習内容等）	資料
１０	水俣病について、これからどんな努力をしていくことが必要でしょうか。 ○　環境を守る活動について考えさせる。   	 ●　赤ちゃんの水分は８８％もある。 ●　**水の汚れの原因は、人がつくっている。**	**環境と人間のふれあい館の HP を基にした自作プレゼン**
２０	○　新潟水俣病について説明する。   	 ●　最初は水俣病の原因が分からなかった。 ●　「うつる病気」「タタリ」だと誤解され，差別や偏見があった。	**「水俣病教師用指導資料集」** **「みなまた探索日記自作 DVD」**
１５	○　水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要か考えさせる。	●　自然を守る。 ●　差別をしない。 ●「もやいなおし」をする。	

授業後の子どもたちの考え

〇水俣病について学んでの振り返り

・新潟水俣病になった人は，差別された人がとてもかわいそうでした。差別の手紙がひどいです。差別は，絶対にしてはいけないと思いました。又，自然を大切にして，環境を守っていきたいと思いました。

・差別やからかいはだめなんだと思いました。

・人を差別してはいけない。その苦しみを理解して，やさしい気持ちでつきあうことが大事だと思いました。

・苦しみを理解して，差別をしてはいけないということが分かりました。

・私は，差別してはいけないことが分かりました。病気になった人は，苦しんでいる人です。差別を受けるのは，かわいそうだと思いました。

・これからは，自然を大切にし，人が苦しんでいたり泣いていたりする人がいたら，やさしく声を掛けてあげたいです。又，その人のためになることをしたいです。

・私は，水を汚さないで自然を守っていこうと思いました。又，差別はしてはいけないと思いました。

・私は，水俣病になった人の苦しみを理解して，その人のためになることをしたいです。

・人を差別してはいけないと思いました。

・人の命は，何よりも大切なんだと思いました。この命は，お金でかえられないと思いました。水俣病を起こさないために，自然を大切にすることが大事だと思いました。

・差別するのは，だめだと思いました。

・人の命，自然を大切にすることと，苦しみを理解することが大事だと思いました。

・私は，医者になりたいと思いました。水俣病のように治らない病気も治せる人になりたいです。治らなかった場合でも，心も傷付いてしまう人がいたことが分かったので，医者になりたいと思いました。

■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立新関小学校	担当（職・氏名）	教諭・佐藤　快海
学習テーマ	「うまさぎっしり！新関　今・未来」,「ともにいきる」		
活動のねらい	「新関米」をつくる体験活動を通して農家の課題を考え，先人の努力や工夫を知り，環境保全・改善に主体的に取り組む態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・新潟水俣病患者である語り部の話から学ぶ時間を設け，直接的な体験を重視する。
・新潟水俣病は環境や病気だけでなく，人権問題でもあることを捉えさせる。

○　活動概要

・新関の米作りについて学ぶ。
・米作りに必要な水（主に阿賀野川）について学ぶ。
・阿賀野川の今と昔を調べ，新関の人々が阿賀野川とともに生きてきたことを知る。
・社会科の学習を通して，環境が人々の生活に深くかかわっていることを知る。
・新潟水俣病について知る。
・「環境と人間のふれあい館」へ行って学習を深める。
・新潟水俣病は，環境問題であるとともに，人権問題であることを学ぶ。
・新潟水俣病の悲劇を繰り返さず，今の水の環境を守るために，何ができるかを考え発信する。
・これからの新関の農業について考えたり調べたりして，最後に発表する。

○　活動詳細

実施期間	Ｒ２年４月～Ｒ３年３月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新関の米作りの学習	３０時間	・新関で作られている農作物を調べる。 ・米作りの一年の流れを調べる。 ・播種を見学する。 ・田植えを体験する。 ・稲の生長具合を調べる。 ・最新の農業機械（ドローン）を見学する。 ・稲刈りを体験する。 ・はさ掛けを体験する。 ・収穫した新米を味わう。 ・米の品種改良の現状を調べる。
阿賀野川について調べる	５時間	・阿賀野川の位置，長さ，水質などを調べる。 （早出川への校外学習も含める） ・新関と阿賀野川の氾濫の歴史を調べる。

新関水俣病について知る	１０時間	・新潟水俣病の原因・症状などを調べる。 ・「環境と人間のふれあい館」を見学する。
新潟水俣病を人権問題としてとらえる	４時間	・新潟水俣病の被害者の気持ちを考え，自分たちにできることを考えさせる。
発表する	６時間	・これまでに学んだことを考えさせ，これから生活していく上で，自分たちにできることを考えさせ，発表する。

○　協力団体・協力者等

・環境と人間のふれあい館
・語り部　　曽我　浩　さん
・新潟県新潟地域振興局新津地域整備部
・ＪＡ　新津さつき野
・白銀カルチャー

○　成果と課題

【成果】

・学校田における米作りをきっかけに，私たちの生活と自然環境とのかかわりを考えるよい機会になった。実際に田植えや稲刈りを体験することを通して，水の重要さを知った。
・新関地区の農業について学習してから水俣病を考えたことで，地元の農業と密接な関係のある阿賀野川で起こった新潟水俣病に，興味をもって学習を進めることができた。
・新潟水俣病の理解を通して，さらに環境保全への意識が高まったばかりではなく，語り部から被害者の思いや辛かったことを聞き，二度と同じ過ちを犯してはならないという思いと，自分たちが差別や偏見のない世の中にしたいという思いをもつことができた。
・新潟水俣病について，正しい知識をもつことができた。
・「環境と人間のふれあい館」での見学を通して，水が私たちの生活に欠かすことができないものであることを理解できた。

【課題】

・差別や偏見をしてはいけないことは学んだが，日常生活の中で，実践していく意識を持続していくための支援を今後も行っていく必要がある。とりわけ，新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者への差別やＳＮＳでの中傷など，身近にある人権問題はたくさんある。機会があるたびに，繰り返し指導していく。

田植え




ドローン見学




早出川ダム＆早出川見学





稲刈り





はさ掛け

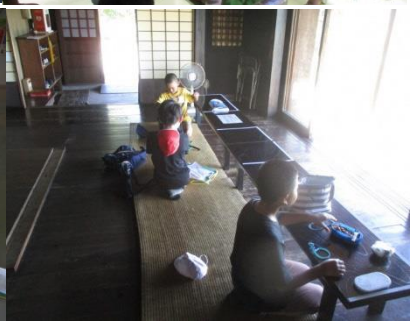




環境と人間のふれあい館＆福島潟





新米試食




■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立新関小学校	**5年1組（11人）**	**9月10日**	**道徳**	**教諭・佐藤快海**

・主題名　ともにいきる

・ねらい　身近にある阿賀野川で起こった新潟水俣病を学習することを通して，新潟水俣病の基本的な知識や被害者の差別や偏見を知り，今後どのように生活すればいいかを考え，実践しようとする意欲を高めることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	新潟水俣病はどんな病気だったでしょうか。 ○「環境と人間のふれあい館」で学んできた新潟水俣病について復習する。	**・新潟水俣病は阿賀野川の魚を食べて起きた病気だ。** **・鹿瀬町からの工業排水が原因だった。** **・頭痛，耳鳴り，しびれなどの症状がある。** **・人によって症状が異なる。** **・まだ苦しんでいる人がいる。**	・学習メモ ・資料 「新潟水俣病が教えてくれたもの」
5分	新潟水俣病の被害者は，どんなことが辛かったのでしょうか。 ○病気の被害者が差別や偏見を受けていたことを知る。	**・周りの人から新潟水俣病であることを信じてもらえなかったなんてかわいそうだ。** **・病気であることを知られると悪口や差別をされ，心も傷つけられたと思う。** **・陰口が嫌で，認定申請をしていない人が多いことを知り，驚いた。**	・学習メモ ・資料 「新潟水俣病が教えてくれたもの」
7分	語り部の曽我さんの話を聞き，どう思いましたか。 ○新潟水俣病について感じたことを書く。 	**・話を聞いて悲しくなった。** **・差別をなくすには，思いやりが大切。** **・差別を絶対にしない。** **・阿賀野川の環境がよくなり良かった。** **・他の人にも新潟水俣病のことを教えてあげたい。**	・学習メモ

33分	これからの生活で，自分たちにはどんなことができるでしょうか。 ○校外学習を振り返り，これからの生活で自分たちにできることを考え，発表する。  	**・誤解による偏見をしてはいけない。** **・相手の立場に立って考える。** **・思いやりをもって相手と接する。** **・聞いた情報が正しいのか冷静に判断する。** **・ＳＤＧｓの「安全な水とトイレを世界中に」を大切にしたい。** **・まずポイ捨てやゴミ拾いなどできる範囲で環境をきれいにしたい。** **・川にゴミや油を捨てない。** **・自分勝手な行動をすると誰か傷つく人がいるかもしれないから相手のことを考えて行動したり発言したりする。**	・資料 「新潟水俣病が教えてくれたもの」 「SDGsキッズ版」

・授業後の子どもたちの考え

・新潟水俣病の原因は人が有機水銀を含んだ排水を流したことだと分かりました。一人一人が環境のことを考えれば起きなかったのかもしれないと思いました。これからは，少しでも環境をよくするために排気ガスをなるべく出さないように心がけたいです。

・もし自分が新潟水俣病の被害者のように嫌がらせの手紙が届けられたら，とても傷つくと思いました。なので，苦しんでいる人に少しでも力になりたいと思いました。病気が怖くても，苦しんでいる人のことを考えたいです。

・私は見た目で判断せずに，被害者の人の意見などを聞いて差別せずに生活していきたいです。

【参照】

・ＳＤＧｓキッズ版

https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pks/sdgs.html

■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立白根小学校	担当（職・氏名）	教諭　大関陽子
学習テーマ	総合的な学習の時間「食の安全見守り隊」		
活動のねらい	食と安全について調べることを通して，自分の食生活を振り返ったり，自分にできること考えたりすることができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

普段何も疑わずに食べている物が，実は自分自身の健康と密接につながっていることを児童が理解し，食の安全や食糧問題に対しての意識を高めていくこと。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

白根地区では，農業が盛んに行われている。活動の初めには，白根の農業を体験するために米について学習を行った。本年度はコロナウイルスの感染状況から田植えはできなかったが，稲の観察や稲刈りを体験し，収穫した米を炊いて食べた。

身の周りの豊かな環境が，自分たちの食を支えていることを体験・理解したうえで，日本や世界で起こっている食の安全や食糧問題について，調べる活動を行った。本やインターネットで調べていくうちに，食による健康被害や食品ロスなど，多くの問題点に気付くことができた。自分の生活を振り返り，自分たちができることを提案し，発信する活動につなげた。

○　活動詳細

実施期間	６月～２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
白根の農業や米作りについて調べる。	８	本やインターネットで調べられるように，環境を整える。
調べたことを新聞にまとめる。	５	稲の観察を行い，体験したことも含めて，新聞にまとめられるようにする。
稲刈り体験・炊飯体験（炊飯は家庭科で行う）	２	地域のボランティアのみなさんからも，米についてのお話を聞き，一緒に稲刈りを行う。
食と安全について課題を見出し，調べる。	８	本やインターネットで調べられるように，環境を整える。新潟水俣病についての学習を道徳で行う。
プレゼンテーションを作成する。	１０	コンピュータでのプレゼンテーション作成について指導し，調べたことを分かりやすく発信できるようにする。
食と安全・食糧問題についての意見交換をする。	２	国際情報大学と連携して，ファシリテーション形式で食と安全・食糧問題についての意見交換を行う。
発表会をする。	３	個々の課題について情報交換したり・発信したりする場を設ける。
活動のまとめをする。	２	自分たちができることについて，具体的に考えさせる。

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

＜成果＞

・「食の安全に関わる問題が，自分にも起こりうる」「人ごとではないと気付いた」などの振り返りが多く見られ，児童の意識の高まりが感じられた。
・問題意識をもって，調べたことを発信していこうとする姿が見られた。また，問題提起だけで終わらずに，自分たちにできることを提案するプレゼンテーションが多かった。

＜課題＞

・コロナウイルス感染状況もあり，予定していた活動（学校田の周りの自然環境観察・田植え体験・ゲストティーチャーからお話を聞く活動など）が実施できなかった。予定を早めに変更し，できることの中で学びを深めさせようとしたが，本やインターネットに頼ることが多くなった。できる範囲内で，実際に体験する活動をもう少し増やせないか，検討していきたい。
・指導計画では，新潟水俣病については，社会科の学習で２月後半から３月にかけて学習することになっているが，総合的な学習の時間や道徳とも連携させていくために，単元を入れ替えてもっと早い時期に学習を行う方がよかった。次年度以降の課題としたい。

稲　刈　り　体　験





収穫したお米を炊飯しよう





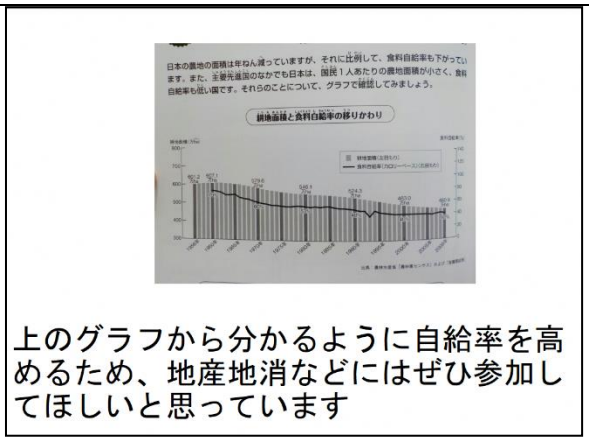
大学生と一緒に，食と安全について学ぼう





食と安全について学んだことを発信しよう









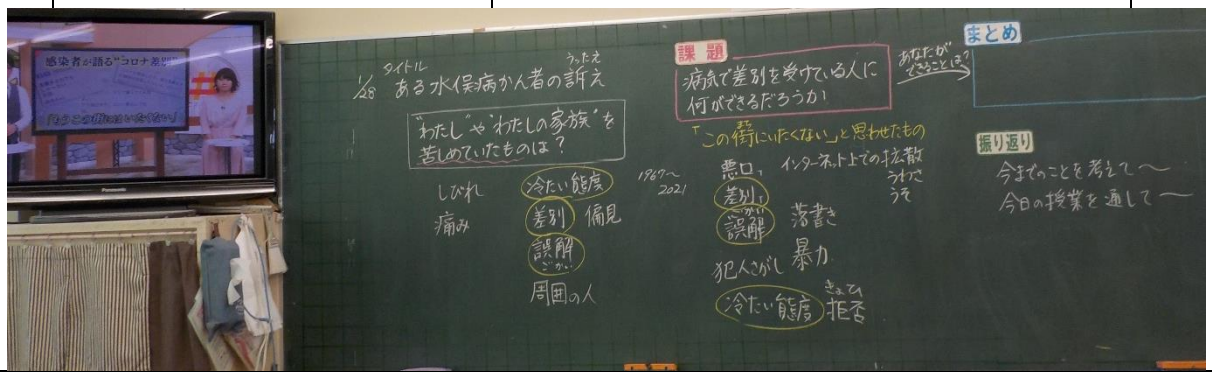
■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立白根小学校	**5年3組（30人）**	**1月28日**	**道徳**	**教諭　大関陽子**

・主題名　続く差別を…　公正・公平・社会正義
・ねらい　新潟水俣病の被害者が病気や差別・偏見に苦しんでいることを，時事問題としてのコロナウイルス感染症への差別と関連付けることを通して，差別の現実や苦しみの大きさを理解し，病気に対する差別や偏見を許さず，苦しんでいる人に自分ができることをしようという心情を高める。
参考資料　「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために」…資料Ａ
「ある新潟水俣病患者の訴え『生きるⅢ』」…資料Ｂ

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
15	朝学習 ○「ゆるせない！」と思うところに線を引きながら，「ある新潟水俣病患者の訴え」を読むよう指示する。	・職場や地域でも差別など，新潟水俣病の被害者が 受けた様々な差別について，怒りを感じながら，資料 を読み進める。	資料Ｂ P27 ～ 34
10	○朝学習で「ある新潟水俣病患者の訴え」を読み，怒りを感じたことを想起させる。	・けっこう線を引いたよ。 ・腹が立つところが，結構あった。	資料Ａ P71 ～ 82
	○　どんなところに「ゆるせない！」と思いましたか。		
	○「ゆるせない！」と思ったところが，それぞれ違っていることに気付かせる。	・病気なのに悪口を言われたところ。 ・陰口や冷たい態度をとられたところ。 ・自分のせいではないのに差別されたところ。	
	○　「わたし」や「わたしの家族」を苦しめていたのは，何ですか。		
	○水俣病患者に対する差別や偏見は，まだ続いていることを伝え，このままでいいのかを問い掛ける。	・体のしびれや痛み ・冷たい態度 ・差別や偏見や誤解 ・周囲の人	
	課題　　病気で差別を受けている人に何ができるだろうか。		
	○　「病気で差別を受けている人」と聞いて，何か思い浮かびませんか。		
	○自分たちの身近に起きている病気に対する差別として，コロナウイルス感染症について話題にする。	・コロナウイルス感染症 ・新潟にもかかった人いるよね。 ・自分がかかったら嫌だな。	

○動画 「もうこの街にはいたくない」感染者が語る「コロナ差別」の2分37秒までを視聴させる。	・コロナにかかった人は，自分のせいではないのに，苦しい思いをたくさんしているんだな。
○ 「もうこの街にはいたくない」と，女性に思わせたのは，何ですか。	
○もしも自分がかかってしまったらと心配し過ぎる子どもがいる場合には，安心するような話をする。	・インターネット上のデマや犯人さがし ・悪口や暴力 ・誤解や差別 ・冷たい態度
◎ 水俣病差別とコロナ差別に共通していることは，何ですか。	
○差別は，まだ続いていることを確認し，何ができるのかを考えるよう促す。	・もしかすると誰でも病気になるかもしれないこと ・周囲の人の差別や誤解や冷たい態度
まとめ　あなたは病気で差別を受けている人に何ができるだろうかについて，自分なりのまとめをする。	
○「今までは」，「授業を通して」，「これからは」を考えて，振り返りを書くように指示する。	・病気にかかった人に寄り添いたいし，励ましたいと思った。



・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・水俣病の話を聞いて「ひどい！」と思うことが，何回もあって「なんで認めてあげないの」とも思った。何かの症状がある人をバカにしたりする人を見たことがあったけど，見ていただけだったので，次からそういう人がいたら，注意とかこの話を教えてあげたい。

・今まで，その人たちの立場にならずに，ただ「かわいそうだ」と思っていたけれど，今日の授業で，初めてその人たちのことを考えて，これからは励ましていきたいです。

・これからは相手の立場になって考え，差別をしないことを守っていきたい。病気はちがうのに，差別があるのは同じ。なので，少しでも差別されている人の力になりたいなと思った。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	新潟市立小針小学校	担当(職・氏名)	教諭　細田英海
学習テーマ	新潟水俣病とくらし		
活動のねらい	○新潟水俣病について関心をもち，新潟水俣病について自分たちの住んでいる地域で起きた公害であることを踏まえて理解し，環境保全のために自分にできることを選択することができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

５年生社会科の授業における公害の授業として，自分たちが住む新潟県で発生した新潟水俣病を取り上げる。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

・新潟水俣病が発生したことを認識し，その概要をまとめる。
・訴訟を続けてきた被害者について，資料を基にどのような思いで裁判に臨んできたのかを考える。
・環境と人間のふれあい館を見学し，語り部さんの話を動画で視聴する。
・見学したことをもとに人々の協力や努力などに着目して公害防止の取組を捉える。
・実際に発生した差別や偏見などの事象について考えるとともに自分の生活にどう生かせるのか考える。（道徳）
・単元で学習してきたことを踏まえて環境を守っていくために自分にできることを考える。

○　活動詳細

実施期間	１１月～　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病について知る。	３	・新潟水俣病について概要を知らせて見通しをもたせ，追究意欲を高める。 ・年表にまとめる活動を通して，新潟水俣病の発生時期や経過に気付かせる。
見学等を通して被害者の活動や心境を考える。	４	・語り部さんの文章をきっかけとして，被害者の取組とその心情を考えさせる。 ・環境と人間のふれあい館を見学したり語り部さんの話を動画で視聴したりして本物の“被害”に触れさせる。
差別や偏見について考える。	１	・被害者が受けた差別や偏見に着目させ，どうしてそんなことが起きたのか，そして根絶するためにはどうすべきかを考えさせる。
これから，自分ができることを考える。	１	・公害が環境に及ぼす影響を振り返り，これからの自分にはどのようなことができるのか考えさせる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

≪成果≫

・環境と人間のふれあい館に見学に行ったり語り部さんの話を視聴したりすることで本物の被害に触れることができた。児童は環境と人間のふれあい館で展示されている実際の書物や新聞などを食い入るように見て，考えたことをメモしている様子があった。またその差別や偏見について，その被害の詳細や背景を考える際には，被害者に向けて行われていたことに対して大きな驚きを感じていた。書物などで知るよりも嫌がらせの実際の文面などを見ることで大きな衝撃を感じたのだと思われる。
・自分たちが住む新潟県で起きたことであり，阿賀野川を知っている，実際に行ったことがある児童が７割ほどだったため，意欲をもって追究することができていた。
・単元終了後の振り返りの文章では，「最初は水俣病の名前も知らなかったが自分の住む新潟でこんなことが起きていたと知ってびっくりした」といった記述が多くみられた。さらに「こんな被害が二度と起こってほしくない」「大切な新潟を汚さないでほしい」といった記述もあった。新潟水俣病の存在を知らなかった児童が，自らの住む新潟で起きた公害について詳しく知ることができるだけでなく，公害がいかに人や環境を阻害することであるかに思いを致し，公害を起こさず環境を大切にしていこうという思いを育むことができた。それだけでなく，「僕は川とかの環境を大切にしたいです」といった記述があったことから自分事として環境を大切にしていく意識が児童の中に芽生えている姿も見られた。

≪課題≫

・新型肺炎の影響のため，検討したものの今回は語り部さんに実際にお話を聞くことを見送った。実際の被害者の方からお話を聞く経験をできたならば，児童の心に訴えかけてさらに新潟水俣病について深く考えさせることができたのではないかと考える。
・社会科と道徳の視点から授業を行った。被害者が受けた差別や偏見が強く児童の心に残っていたようであった。単元最後の振り返り文では，差別や偏見に対する嫌悪感や根絶していきたい思いが多く記述されていた一方で社会科における知識などの記述が少なかった。道徳的な心情はもちろん大切だが，社会科における知識も一層身につけていけるよう指導の工夫が必要だと感じた。

○写真資料

授業の様子





環境と人間のふれあい館　見学の様子





（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立小針小学校	**5年1組（31人）**	**11月25日（水）**	**社会**	**教諭　細田英海**

主題名　『新潟水俣病とくらし』

ねらい

新潟水俣病の訴訟について，その回数や経緯，語り部の言葉を調べる活動を通して，被害者が二度と同じ被害を生みたくないという思いで裁判に臨んできたことを理解する。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10分	新潟水俣病に関する裁判が今も続いていることについて新聞記事を提示して気付かせる。 学習課題を設定する。 ＜学習課題＞ 新潟水俣病の被害者は，どんな思いで裁判に臨んでいるのか？	・新潟水俣病に関する新聞記事だ。 ・日付を見ると去年のものだ。 ・発生から長い年月が経っているのに，今もまだ裁判が続いているんだな。 ・こんなに長い間頑張れるのはなぜなんだろう。	朝日新聞digitalの記事
15分	「被害者として伝えたいこと」を配付し，被害者の思いが伝わるところを問う。	・「二度と」という所に強い思いが出ているな。 ・「公害は切り離せない」という所から公害のことをみんなに考えてほしかったんじゃないかな。 ・安心して眠れる夜を目指していたんだな。 ・自分と同じ経験を他の人にしてほしくないという思いが伝わってくるね。	新潟水俣病語り部小武節子さんの話「被害者として伝えたいこと」
10分	資料から読み取れる被害者の思いをグループごとにKJ法でまとめさせる。	・いくつかの考えは「日本の国民のため」というまとめ方ができるね。 ・「二度と公害を起こさない」というまとめ方ができる意見はたくさんあるね。	
10分	各グループの意見を基に学級全体でまとめる。 ＜まとめ＞ ５０年以上たった今も苦しむほど大変な思いをしたので，二度と同じ被害を起こさないで欲しい思いで臨んでいる。	・二度と公害を起こさないという思いがあったのだと思います。 ・人命を大切にしているのだと思います。この文章から人命を大切にしていないことに対して被害者は怒りを覚えたのだと思います。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病のつらい思いがよく伝わってきました。くやしい思いをしていたと思います。差別や偏見にたえて裁判に臨んでたのはすごいことだと思いました。

・私は安心して眠れる夜が早く来てほしいと感じていたのではないかと思いました。それだけ新潟水俣病は怖いものなのだということを知りました。

・若い人に知ってほしいということが分かりました。自分たち若い人が知れてよかったと思います。

・わびてほしい，償ってほしいという文がありました。もし自分がそうだったら同じように思うと思います。

・裁判が今も続いていることはそれだけ大変なことだろうなと思いました。これだけ長い期間たっているのに，と思いました。

■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立黒埼南小学校	担当（職・氏名）	教諭　三浦美也子
学習テーマ	米作りに大切な水について調べ，食と環境について考えよう		
活動のねらい	学校田の米作り体験を通して，私たちの食には水が深く関わっていることを理解し，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・ゲストティーチャーとの新潟水俣病や川に関連した学習を通して，食と環境とのかかわりについて学ぶ。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部さんの講話を聞いたり，資料を見たりして新潟水俣病の歴史や現状を学ぶ。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①米作りの栽培方法について水とのかかわりから学習を進める。
②おさかなマイスターから，地域の水産業と水とのかかわりを学び，水環境の大切さを実感する。
③「水環境」をテーマに川と人間の生活のかかわりや新潟水俣病についての事実を学ぶ。
④社会科で，４大公害病の一つである「新潟水俣病」の歴史や現状について調べ学習を深める。
⑤「環境と人間のふれあい館」で見学をしたり，語り部さんの講話を聞いたりして，新潟水俣病の理解を深める。
⑥これまでに学習した食と水，自然環境を振り返り，米作りと関連づけたまとめを作成する。
⑦総合的な学習の時間に「米の収穫祭」を行い，米作りでお世話になったＪＡ青年部の方々に向けてこれまでの学習の成果を発表する。

○　活動詳細

実施期間	令和２年５月～令和３年１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米作りを知ろう	１０	・米作りの歴史を学ぶ。 ・栽培方法を学ぶ。 ・先人の苦労や工夫，知恵について理解を深める。 ・農業を営む人々の思いに気付く。 ・稲の生長の仕方について学ぶ。
水と生活のかかわりを知ろう	５	・おさかなマイスターから，地域の水産業の発展と水とのかかわりについて学ぶ。 ・川の水質を保つことの価値を知り，自然環境を守ることの大切さを学ぶ。

新潟水俣病の理解を深めよう	１２	・米作りと水環境の保持を関連させ，川と人間の生活のかかわりから新潟水俣病を知る。 ・「環境と人間のふれあい館」で見学をしたり，語り部さんの講話を聞いたりして，新潟水俣病への理解を深める。 ・社会科の学習で，新潟水俣病について，歴史や現状について調べる。 ・新潟水俣病は，過去のものではなく，今も身体的苦痛，精神的苦痛を受けている人がいる事実を知る。
「収穫祭」で伝えよう	５	・新潟水俣病について学んだことを通して，これからの環境をどう守っていけばよいのかを考える。 ・米作りだけでなく食全体において水が大切であることを理解しまとめに生かす。 ・「収穫祭」を行い，これまでの学習の成果とこれから自分たちにできることを発表する。

○　協力団体・協力者等

ＪＡ越後中央青年部
山津水産　おさかなマイスター
環境と人間のふれあい館
ビュー福島潟
信濃川ウォーターシャトル

○　成果と課題

【成果】

・新型コロナウイルス感染症の影響から，学校田の播種や田植えが体験できなかったため，１人１バケツのバケツ稲栽培も並行して行った。田んぼとバケツそれぞれの稲を比較することで，水の量や質を管理することの大切さを実感することができた。
・「環境と人間のふれあい館」で実際の資料を見たり，語り部さんからの講話を聞いたりした後に，「生きるⅢ」の資料で学ぶことで，新潟水俣病の現状を身近に感じ，理解を深めることができた。
・社会科の学習を関連させて，裁判闘争や差別，偏見が生み出されてきた事実をとらえることができた。
・「収穫祭」の発表では，「水を守っていくことで，食全体を守り発展させていくことができる」「未来を担う自分たちが，今できることから始めなければならない」など，環境問題を大きくとらえる児童の姿が見られた。

【課題】

・「米作り」「水産業」と「新潟水俣病」とを関連付けて学習させたいと考えたが，児童の思考をつなげていくことがとても難しかった。教師が新潟水俣病の実情について更に理解を深め，体験活動と関わらせながら，児童の心に響く学習を推進していく。

なるぞ！米博士！～食と環境について考えよう～

◆米作りに挑戦！　　学校田とバケツで稲を栽培しました。



バケツの稲も学校田も水の管理が大切なんだと分かりました。









ＪＡ越後中央青年部の皆さんが「お米の先生」として，何度も学校に来てくださいました。おかげで，たくさんの米を収穫することができました。バケツ稲も一緒に収穫しました。

◆新潟水俣病のこと，水環境の大切さを学びました。

～環境と人間のふれあい館～







語り部：小武節子さんのお話を聞きました。長い裁判での戦いや嫌がらせ，差別で苦しんできた人生について語ってくださいました。

◆水産業から，生活と水とのかかわりを学びました。

～山津水産おさかなマイスター・みなとぴあ・ウォーターシャトル～





川と生活のかかわりや水産　業の歴史，現在の技術を教わり ました。おいしい魚を食べられるのもきれいな水環境のおかげだと学びました。





◆収穫祭で，今まで学習してきたことを発表しました。







お世話になったお米の先生方に今まで学習してきたことをまとめて発表しました。収穫したお米は「黒南たろう」と名付けました。

■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科	授業者(職・氏名)
黒埼南小学校	5 学年（24 人）	12 月 16 日	道徳	教諭　野上時子

・主題名　みんなが仲良くくらしていくために　2－（2）思いやり・親切
・ねらい　地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して，相手の立場を想像し，相手のことを考えた言動の大切さに気付き，自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

配 時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	○資料を範読し,「阿賀野川のほとり」の様子を確認させる。 ○水俣病に起因する差別発言によって地域が結び付きを失ったことを確認させる。	●昔は，船がいきかうにぎやかなところだった。 ●阿賀野川の水を飲み，川魚を食べていた。 ●ご近所で集まって楽しい話をしていた。	P37 読み物資料
	□　強い絆で結ばれていた村は，水俣病によってどうなってしまいましたか。		
	○川の恵みから人々を遠ざけた水俣病への差別や偏見が地域の結び付きを壊したこと強調する。	●村のみんなが川から離れていった。 ●水俣病だと認められた人と認められなかった人との間に差別や偏見が生まれ絆が壊れていった。	
	□ 手足が痛く，目が見えにくいなどの苦しみの上に，さらに陰口を言わ　れたらどんな気持ちになるのか，ロールプレイで確かめてみましょう。		P39 ワークシート
	○教師が最初に責める役のモデルを行う。 「水俣病と認められなかったのか。お前はニセ患者だ。金がほしいだけなんだろう！」	●とても悲しい。同じ村の仲間なのに。 ●腹が立つ。同じ川の水でくらしてきたじゃないか。 ●本当に具合が悪くてつらいのに，なんで仲間にまでこんなことを言われるんだ。つらすぎる。	
	□ 旗野さんは，お地蔵さんを建てて，もとの仲が良かった村に戻そうと　しました。では，お地蔵さんを建てるとみんなの仲が良くなるのでし　ょうか。旗野さんは何のためにお地蔵さんを建てたのでしょうか。		
	○旗野さんがとった行動の意味を考えさせる。	●旗野さんは，お地蔵さんをきっかけにしたかったのだと思う。 ●お互いのことを思いやろうとする心が大切だと言いたかった。	
	□　どんな言葉かけをすれば，もとの仲の良かった村に戻るのでしょうか。ロールプレイをして考えてみましょう		

	○ロールプレイを通して相手の立場に立った言動とはどういうものかを実感させることで，その必要性に気付かせる。 	●「水俣病と認められなくて悔しかったね。」 →つらい気持ちを分かってくれてありがとう。 ●「どこが痛い？いっしょに病院へ行こうね。」 →うれしい。仲間っていいな。 ・ペアで役割を交代しながら活動　し，感じたことを班で意見交換す　る。 ・思ったことを付箋に書き，自分の　考えを伝え合う。	P41 旗野さんの言葉
	□　ロールプレイや友達との意見交換で感じたことから，今日あなたが考えたことを書きましょう。	●ロールプレイとわかっていても，陰口を言われるのはとてもいやだった。相手を思いやる言葉は大事だ。 ●こういうのを差別や偏見というのだと思った。病気の人の気持ちもよく分かってあげたい。	

・子どもたちの考え等

○　病気もつらいけれど，仲間からニセ患者だとか金もうけだとか言われることが，とてもつらいと感じた。相手のことをよく考えずに何かを言うことは，してはいけないと思った。 ○　村の人たちは何も悪くないのに，水俣病になってしまって，とても大変だったと思う。今もまだ，たたかっていることを見学で学んだので，今日のロールプレイがとてもつらかった。私は，病気のことをよく知らなければと思った。 ○　旗野さんが，なぜお地蔵さんを建てたのか最初は分からなかったけれど，友達との意見交換で「お互いを思いやろうよ。」という気持ちが込められているんだなと分かった。

■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立松野尾小学校	担当(職・氏名)	教諭・鈴木　綾子
学習テーマ	「地域の産業と環境を考えよう」		
活動のねらい	地域の産業や環境を守る活動に携わる人の思いについて，地域での体験やゲストティーチャーの講話，新潟水俣病についての学習を通して，正しい知識への理解を深めたり自分たちにできることは何かを考えたりして，地域の産業や環境を守っていこうという態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・新潟水俣病について，「環境と人間のふれあい館」からの資料をもとに，正しい知識を得る。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部から，身体的な苦しみ，心の苦しみについてお話を伺う。また，それらが今も続いていることを忘れず，自分たちにできることを考えさせる。

○　活動概要

・学校周辺の地域が水とかかわりの深い地域であることを，体験や学習を通して知る。
・DVD「新潟水俣病」を視聴したり，資料を読んだりして，新潟水俣病について知る。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部の話を聞き，患者の苦しみを知る。
・「環境と人間のふれあい館」での水質実験を通して，生き物が生きることができる水環境について関心をもつ。
・身近な地域の水質調査や鮭の稚魚の放流活動を通して，地域の水環境を見つめ直し，自分たちにできることを考える。

○　活動詳細

実施期間	６　月　～　３　月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米作りに関わる学習・体験	１２ 総合 社会	・苗づくりから始まる米作り体験を行う。 ・用水や水管理の大切さについて，講師から話をしてもらう。
上堰潟・田舟に関わる学習・体験	６ 総合 社会	・上堰潟と周辺の地域について，講話や資料から潟の歴史やくらしの変化について知る。 ・田舟の乗船などを通して，水とかかわりが深い地域であることに気付かせる。
水俣病についての学習 ・原因や被害について ・解決に向けた取組 ・患者さんの苦しみ ・差別や偏見をなくすためにできること	７ 総合 社会 道徳	・DVD や資料から，新潟水俣病の原因や症状，解決に向けた取り組みなどについて正しく理解させる。 ・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部の講話から，患者自身の体験や思いを聞く場を設定する。 ・人権教育の視点から，「ある水俣病患者の訴え」(生きるⅢ)を読み，新潟水俣病の身体的な苦しみと差別や偏見による心の苦しみについて理解し，自分にできることを考えさせる。

鮭の稚魚放流活動 ・稚魚を育てる活動 ・稚魚放流に関わる学習 ・地域の水質の検査	５	・稚魚放流を始めたきっかけや鮭の戻ってくる川（潟）を守るために活動する地域の方の思いを聞く場を設定する。 ・地域の方にもらった発眼卵を育て，その稚魚を放流する活動や地域の水質検査を通して，魚が住める自然を守っていこうとする気持ちを育てる。
地域の産業や環境を守っていくために自分たちにできることの発信	６	・これまでの学習を振り返り，地域で農業を行う方や体験活動に協力いただいた方，講話をいただいた方や語り部の思いに応えるために，自分たちにできることを考え，校内や地域の方への発信の機会を設定する。

○　協力団体・協力者等

・稲作指導　　齋藤勝さん，JA 越後中央こしわ

・上堰潟，田舟の学習，鮭の放流活動　　上堰潟を育てる会代表　齋藤一雄さん
松野尾コミュニティ協議会

・水俣病の学習　　環境と人間のふれあい館，水澤洋さん（語り部）

○　成果と課題

【成果】

○「総合的な学習の時間」における「地域の農業の学習」，「地域の環境を守る活動」，社会科「自然条件と人々のくらし（低地くらし）」「みらいを支える食料生産（米作り）」「環境をともに守る」，道徳（人権教育）と，様々な教科・領域の学習がつながり，深く学ぶことができた。

○環境と人間のふれあい館からのＤＶＤ教材，リーフレット教材での学習に加え，語り部の話を伺うことができ，より身近な問題として，新潟水俣病の学習を捉えることができた。特に，人権問題の視点からの学びが深まった。実際に語り部に会い，話を聞くことで，患者の苦しみを共感的に捉え，つらさに寄り添うことが大切だということに気付いた。「差別をする側になってはいけない」「傍観者にならず，苦しんでいる人のために自分たちは何ができるか考え，行動することが大切である」という考えをもつことができた。

【課題】

○社会科での環境（公害）に関わる学習が３学期後半の単元となっていたため，今回は単元を入れ替え，12 月から 1 月に行った。自分たちの住む地域の環境を調べ，守るために行動するという面では，季節柄，屋外での活動がやりにくく，学びが弱かったと感じている。社会科の学びのつながりや広がりと関連させることが難しかった。

【米作り体験】





【坪刈り・脱穀体験】



【田舟の学習】



【田舟乗船体験】





【環境と人間のふれあい館見学】	【水質検査の実験】
	
【語り部の方の講話】	【水俣病の学習】
	
【鮭の稚魚を育てる活動】	【鮭稚魚放流に関わる学習】
	

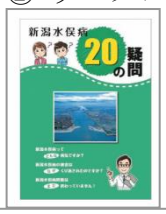
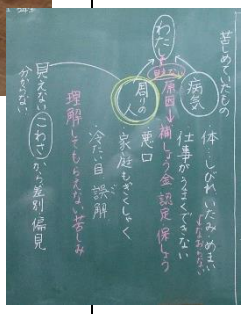
■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

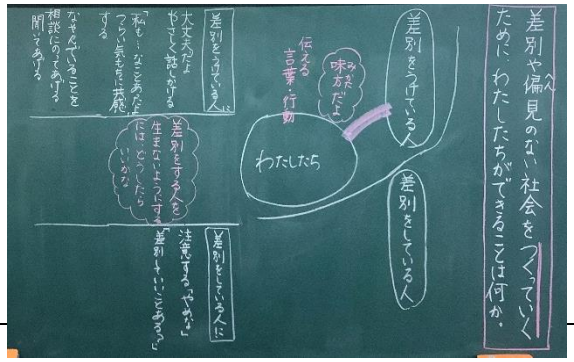
学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立松野尾小学校	**19人**	**1月20日**	**道徳**	**教諭・鈴木　綾子**

・主題名　差別や偏見のない社会を目指して　　内容項目 C−（11）公正，公平，社会正義

・ねらい　〇新潟水俣病について，資料での学習に加え，実際に語り部の話を聞くことを通して，新潟水俣病患者の身体的な苦しみや心の苦しみを想像させ、再び起きてはならないこととととらえさせる。

〇差別や偏見を許さず，苦しんでいる人の味方になる行動をしようとする態度を養う。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	〇新潟水俣病に関わるこれまでの学習を振り返り，確認する。		
	【前時まで】 ①DVD 教材　② リーフレット教材　③「環境と人間のふれあい館」語り部さんの講話    【指導計画参考】 「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために－新潟水俣病教師用指導資料第２集－」P.３８～		
	新潟水俣病は，どのような病気でしたか？	●有機水銀が原因の公害病。 ●阿賀野川の上流の方で起こった。 ●うつる病気ではない。	
15	新潟水俣病の患者さんたちの思いについて，資料から考えましょう。 〇資料を配付する。 〇資料から身体的な症状の苦しみと，周囲の人から受けた心の苦しみについて読み取らせる。 〇新潟水俣病患者の身体的，心理的な苦しみに気付かせる。	 	生きるⅢ「ある水俣病患者の訴え」
	新潟水俣病の患者さんたちを苦しめていたものは何ですか。		
	〇「環境と人間のふれあい館」での語り部の話の「症状は周りの人には分かりにくい，治らない」ことを思い出させる。	●病気…しびれ，耳鳴り，頭痛。 ●仕事がうまくできない。 ●周りの人…悪口，冷たい目，誤解。 ●病気の苦しみやつらい気持ちを理解してもらえない。	

	なぜ，差別や偏見が起こったのでしょう。 ○差別する側の心の弱さに気付かせる。	●病気のことが分からない。 ●ひがみ…補償金，保障。 ●苦しみが分からない。	
20	**【課題】差別や偏見をなくすために，できることは何だろう。** ○資料を配付する。 ○傍観者の立場でなく，差別や偏見をなくすために，自分たちにできること（行動）を考えさせる。 ○グループで考えを交流し，自分一人でなくみんなで正しいことのために行動できる強い気持ちを育てる。	●寄り添う。話を聞いてあげる。 ●差別をやめるよう，注意する。  	 P．42，43
5	○本時の振り返りをする。 ○差別を受けている人，差別をしている人に対する行動とともに，差別をする人を生まないためにどうしたらいいかを含めて考えるよう，視点を与える。	●自分たちが学習したことを広く伝えていくことで，正しく理解してもらうことも大切だと思った。 ●周りにいるぼくたちが勇気を出して，行動していきたいと思った。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

○差別をしている人は，差別をされている人の苦しみが分かっていないのだと思いました。自分が差別をされている人に出会ったら助けてあげたいです。

○差別をしないためには，まずその人のことを知ろうとすることが大切だと思いました。差別されている人の本音や不安なことを聞いたり，共感したりしてあげたいです。

○グループの人と話し合ったとき，「差別をされている人に話しかけてあげる」という考えを聞いて，私もやってみようと思いました。差別をしている人に話しかけて，注意することも大切だと思いました。

○差別をしても，何一ついいことはないと思いました。差別を受けている人がどんなにつらい気持ちになっているかを聞いたり，そのつらさを他の人に伝えたりしたいです。

■様式２：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南浜中学校	担当（職・氏名）	教諭・石田　勇弥
学習テーマ	新潟水俣病についての学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう。		
活動のねらい	水俣病の現地学習を通して、水俣病への正しい理解を深めるとともに、差別や偏見を身近な問題として認識させ、自ら解決しようとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・「環境と人間のふれあい館」や「あがのがわ環境学舎」を訪問し、職員の方から説明を受けたり、語り部から直接お話を聞いたりして、正しく水俣病を理解する。
・生徒同士の意見交換を通して多面的・多角的な見方・考え方を身につける。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
　新潟水俣病について、知識構成型ジグソー法を用いて調べ活動を行い、自分たちで主体的に水俣病についての知識を獲得した。その後、現地を訪れて肌で感じたり、語り部から話を聞いたりする中で、実感を伴った学習へと展開した。最後に振り返りレポートを作成し、これからの生き方と結びつけた。

○　活動詳細
①新潟水俣病について、知識構成型ジグソー法を用いて調査活動を行う。
②あがのがわ環境学舎の方から講義を受ける。
③環境と人間のふれあい館で語り部から話を聴く。
④旧昭和電工鹿瀬工場、鹿瀬ダム、排水溝を見学する。
⑤グループごとにレポートを作成する。
⑥グループごとに発表し、意見交換をしながら学びを深める。

実施期間	９月～１０月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
学習のガイダンス	1	新潟水俣病についての基本知識と今後の学習について
調査活動	2	①発生の経緯・原因②身体的被害③社会的被害④水俣病の現在の４つの観点をジグソー法を用いて調べる
発表	1	調べたことを全員で共有する
講義	1	あがのがわ環境学舎の方からの講義
校外学習	1日	鹿瀬工場跡地、ふるさとふれあい館の見学 語り部から話を聞く

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・あがのがわ環境学舎

・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

《成果》

・知識構成型ジグソー法を用いて調べ学習を行うことで、生徒が主体的に活動することができた。

・現地での学習を取り入れることで、自分たちで調べたこととリンクし、深い学びにつながった。

・あがのがわ環境学舎からの講義を受けることで、専門的な知識を身につけることができた。

・語り部から話を聞くことで、インターネットや文献では知ることができない、生きたの情報を聞くことができた。

・振り返りレポートを作成することで、新潟水俣病の過去と現在を比較し、どう生きていったらよいかという未来を考えることができた。

《課題》

・調査活動を行ったが、資料が不足していたため、深いところまで調べられた生徒が少なかった。

・インターネットを使って調べたが、タブレットの数が限定的であったため、非効率的だった。

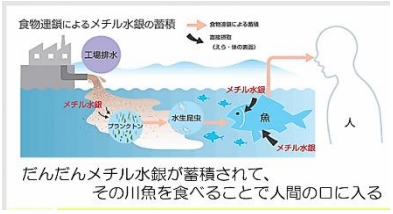
・校外学習の日程がコロナの対策もあって余裕がなかった。

■様式３：令和２年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立南浜中学校	１学年（２１名）	９/２３（水）	道徳	教諭・石田勇弥

・主題名　新潟水俣病～環境と人権問題を考える～

・ねらい　新潟水俣病について，その発生原因や被害について考え，調査する活動を通して，新潟水俣病が環境を破壊し，人権を奪ったことを理解し，環境保全と人権尊重の重要性について考え，校外学習に向けた意欲を高めることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
導入(10)	ワークシートを配布 ○公害とは？スライドを使って説明する。	**○説明** **・環境基本法では，事業活動やその他の人の活動に伴って生じる人の健康又は生活環境に係る被害と定義**	ワークシート
	公害が発生したのはなぜか？		スライド（教師　作成）
	○公害が発生したのはなぜか，予想させる。（↓スライドの一例） 	**○生徒の反応** **・環境が汚染されることを想像できなかった** **・経済発展や便利さを優先した** **・会社の利益を優先した** **・高度経済成長の影響　など**	
	○四大公害病とは？	**○説明** **・新潟水俣病，水俣病，四日市ぜんそく，イタイイタイ病**	
本時(30)	学習課題 新潟水俣病とはどのような公害だったのか？		ワークシート
	阿賀野川と人々のくらしはどのように結びついていたのか？		スライド（教師　作成）
	○阿賀野川と人々のくらしについて，スライドで説明する （↓授業の様子） 	**○説明** **・阿賀野川は生活の場，タンパク源だった** **・メチル水銀に汚染された川魚を大量に食べた人が発症→新潟水俣病の発生** 	

	新潟水俣病について調べよう。 〇新潟水俣病についての４つの観点を知識構成型ジグソー法を用いて調査する。 ①発生の経緯・原因　②身体的被害 ③社会的被害　④水俣病の現在 〇同じ観点を調べた生徒で意見をシェアする。 〇元のグループに戻り，調べたことを共有する。	〇配布した資料（『新潟水俣病が教えてくれたもの～人間の活動と環境のかかわり～』新潟県立環境と人間のふれあい館）とタブレットを用いて調査学習を行う。 	
振り返り（10）	授業を通して考えたこと、気づいたことを書こう。 〇授業を通して考えたことを書く 〇ワークシートを回収し，数名の意見を発表する	〇生徒の反応 ・新潟水俣病が起こった原因は，人々が環境に向き合わなかったからだと感じた。 ・新潟水俣病とは人権を奪い，差別や偏見が生まれ，そのために病気を隠しながら生きていた人がいたということを知った。など	

・授業後の子どもたちの考え（一部）

・新潟水俣病は当たり前の日常を壊してしまう悲しいものだと知った。

・今自分にできることは，できるだけゴミを出さないようにすることや，簡単なゴミ拾いをして，住みやすい環境をつくることだと思った。

・同じ過ちを二度と起こしてはいけないし，次の世代へ正しい知識や恐ろしさを伝えていきたいと思った。

・現在でも問題は残っていると思う。その問題にどう向き合うのかが大切だと思った。

・水俣病の被害者の方からではなく，私たちが見たり聞いたりしたことを伝えていかなければと思った。

・新潟水俣病のせいで周りから差別を受け心も体も傷つけられたと思う。


新潟水俣病の
知ろう・学ぼう




2020/10/02




2020/10/02


2020/10/02


2020/10/02


2020/10/02


2020/10/02


2020/10/02

令和２年度
小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業
地域の特色を活かした環境学習支援事業
実施報告書

主催・制作　新潟県、新潟市
発　行　　新潟県立環境と人間のふれあい館
〒950-3324　新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7
☎ 025-387-1450　　メール fureai@abeam.ocn.ne.jp